

小橋工業(株)のホームページ(以下、弊社サイト)においては、カタログ・取扱説明書・パーツリスト等の電子データの閲覧、ダウンロードのサービス(以下、本サービス)をご提供しております。

本サービスをご利用の際には、以下の注意事項をご確認ください。

電子データの取扱いについて

電子データの内容について

■本サービスにおいては、弊社製品のカタログ、取扱説明書、パーツリスト等、製品に関する全ての印刷物を網羅するものではありません。

■カタログ、取扱説明書、パーツリストの内容は、製品の仕様変更などにより、予告なく変更される場合があります。その為、弊社サイト内に掲載される電子データの内容は、販売店等で配布、掲示されるカタログ、製品購入時に同梱する取扱説明書、印刷物として存在しているパーツリストの内容とは異なる場合がございます。

表記内容は、発行当時の情報であり、弊社純正部品の名称、小売単価、各営業所の名称、所在地などの情報が現在と異なる場合があります。

また、製品安全上の取り扱い、環境対応につきましては、製品販売時の法令、規制に適合するものであり、製品販売後の法令、規制の変更内容を反映していない場合があります。予めご了承ください。

著作権について

本サービス内の電子データにつきましては、弊社(小橋工業株式会社)が著作権その他知的財産権を保有します。無断で他のウェブサイトや印刷媒体に転載することや複製、翻訳等はできません。但し、お手持ちの製品ご使用の為、1部に限り印刷することができます。

保証について

弊社の製品保証、安全性の保証は製品付属の書面にに基づく保証に限られており、弊社サイト内の電子データに基づく保証は提供いたしません。

お問合せについて

ご使用の製品の取り扱い及び、使用上の安全等に関するお問合せは、ご購入店にご相談頂きますよう、お願いいたします。

免責事項

弊社サイトのご利用に起因するソフトウェア、ハードウェア上の事故その他の損害等につきましても、一切の責任を負いません。

弊社サイトのご利用に際して生じたお客さまと第三者との間のトラブルにつきましては、一切責任を負いません。弊社サイトのサービスは予告なく中止、または内容や条件を変更する場合がございます。

以上

小橋工業株式会社

コバシねぎ収穫機

取扱説明書

HG100MA



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本
取扱説明書をお読みください。誤った使いかたをすると、
事故を引き起こす恐れがあります。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

KOBASHI

はじめに

このたびは、コバシねぎ収穫機（ソフィ）をお買い上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は、ソフィの性能を十分に発揮させ、より安全で快適な農作業をしていただくためにも、ご使用前によくお読みいただき、正しい取扱いをしてくださるようお願いいたします。

又、ソフィを他の人にお貸しされる場合には、この取扱説明書も併せて貸し出していただき、正しい取扱いをしていただくようにご指導をお願いいたします。

なお、本製品については、不断の研究成果を新しい技術として、ただちに製品に取り入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますが、あらかじめご了承ください。

▲ 安全作業のポイント

◎安全な作業をしていただくためには、まず機械の使い方を十分理解し、正しい取扱いをすることが基本となります。

◎この取扱説明書では、特に、重要と考えられる取扱上の注意事項について、次のように表示しています。

必ずお読みいただいて事故のない安全な作業をしてください。

▲ **危険**…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

▲ **警告**…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

▲ **注意**…その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。

取扱上の注意…その警告文に従わなかった場合、機械の損傷を起こす恐れのある操作を示します。

ソフィの使用目的・使用範囲

◎このソフィは白ねぎ（根深ねぎ）の収穫を目的とした機械です。

使用目的以外の作業や機械・部品の改造は事故の発生、または機械の故障原因となりますので、決してしないでください。

使用目的以外の作業や機械・部品の改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は、保証書をご覧ください。）

目 次

▲ 安全に作業をするために	1	こんなトラブルが起こったら	34
一般的な注意項目	1	定期点検	38
作業前後の確認時の注意項目	2	作業が終わったら	53
運搬時の注意事項	3	その他	54
移動作業時の注意事項	4	主要諸元	59
作業終了後、格納時注意事項	7	電気配線図	60
▲ 安全ラベルの取扱いおよび			
貼付位置	9		
サービスと保証について	12		
各部の名称	13		
レバー関係の操作方法	14		
始業点検	18		
1. エアクリーナの汚れ清掃	18		
2. エンジンオイルの量と汚れ	18		
3. 燃料の有無および油漏れ	19		
4. 各部のボルトのゆるみ	19		
5. チェンへの注油	19		
上手に作業するには	20		
① 運転の要領	20		
② 作業の要領	25		

▲安全に作業するために

安全に作業していただくために次のことを守ってください。
もし怠ると…傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります。

ここに記載されている注意項目を守らないと、

死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

※ ご購入された製品によっては、該当しない内容も一部記載していますのでご了承ください。

● 一般的な注意項目

本機を使用する前に必ず「取扱説明書」を

取扱説明書をよく読み、機械の使い方をよく覚えてからご使用ください。

機械の操作を知らずに使用するとたいへん危険です。

取扱説明書は、いつでも読めるように、機械と一緒に大切に保管してください。

【守らないと】

死亡事故を含む傷害や事故、機械の破損等が生じるおそれがあります。



機械を他の人に貸すときは

取扱説明書も併せて貸出していただき、正しい取扱いをしていただくように、指導してください。

【守らないと】

説明不足により死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。



こんなときは運転しない

- ① 飲酒運転
- ② 居眠り運転
- ③ 病気や薬物の作用で正常な運転ができないとき
- ④ 若年者
- ⑤ 妊娠中の方

機械の操作に十分熟練し、心身ともに健康な状態で運転してください。



▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

服装には注意を払いましょう

作業中の服装は、ヘルメット、すべらない靴、活動的でキチンとした作業服を着用してください。

だぶついたズボンや上着など、掘取り部や回転部分に巻き込まれやすい服装は、たいへん危険です。ボタンもキチンととめましょう。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、滑って転倒し、ケガをするおそれがあります。

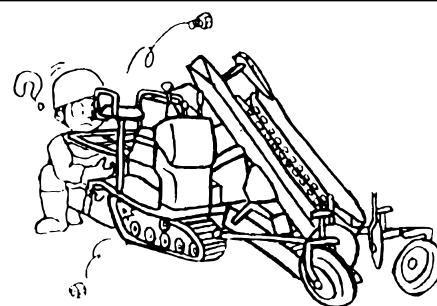


機械・部品の改造の禁止

使用目的以外の作業や、機械・部品の改造は事故の発生、又は、機械の故障の原因となりますので、決してしないでください。

【守らないと】

機械の故障、事故、ケガをするおそれがあります。



● 作業前後の確認時の注意項目

作業前には機械の点検を

各部のボルト、ナットなどの緩みや、ピンの脱落がないか確認してください。

作業中にボルト、ナット、ピンなどが外れますと、機械の破損の原因および事故の原因となります。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となります。



燃料および各オイルの給油

給油の際は、周囲に火気のない場所を選び、必ずエンジンを停止し、各部が完全に止まってから行ってください。
火気厳禁です。

【守らないと】

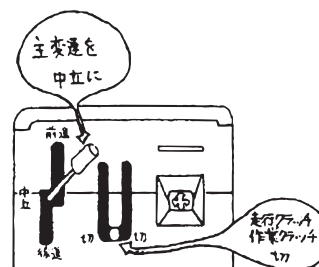
燃料などに引火して、火災の原因となることがあります。



▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

エンジンの始動

エンジンを始動するときは、必ず走行クラッチ、作業クラッチを「切」、主変速を「N」位置（中立）にしてください。

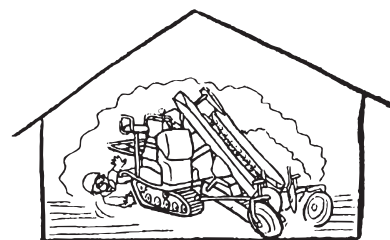


排気ガスには十分注意

閉め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。
エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。
やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気してください。

【守らないと】

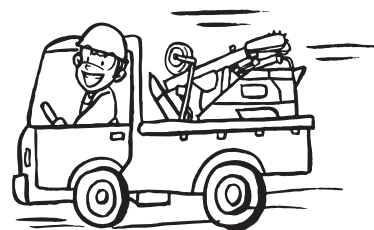
排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故に至るおそれがあります。



● 運搬時の注意事項

公道の移動はトラックで

本機での公道走行は、道路交通法違反となります。
トラック等に積んで圃場まで運んでください。
トラックへの積み込み積載オーバーに注意してください。
過積載での移動は絶対にしないでください。

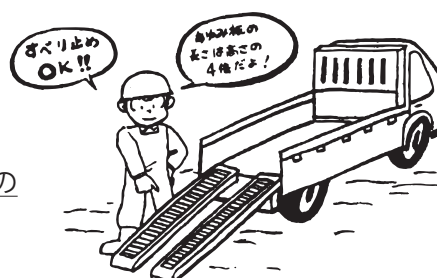


アユミ板を確実に固定する

滑り止めをした丈夫なアユミ板をクローラ幅に合わせ、
確実に固定してください。
また、傾斜角度、平行度を確認してください。
アユミ板は傾斜が15° 以内、またはトラックの荷台の高さの
3.5～4倍の長さのものを使用してください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。

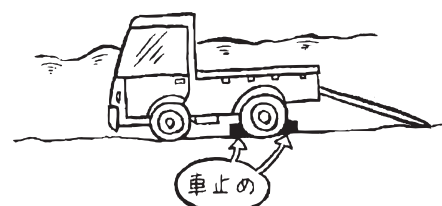


トラックには、必ず車止めを

トラックは移動しないようにしっかりと車のサイドブレーキをかけてください。

【守らないと】

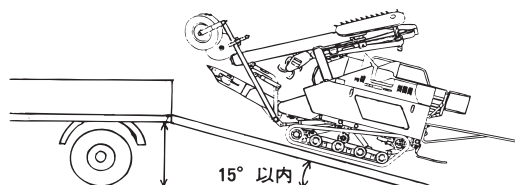
トラックが動いて転落事故などをまねくおそれがあります。



▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

積み込み、積み降ろしについて

- アユミ板は傾斜が15° 以内またはトラックの荷台の高さの3.5～4倍の長さのものを使用してください。
- 積み込みは必ず前進で行い、積み降ろしは必ず後退で行ってください。
- 堀取コンベアを地面とアユミ板に接触しない程度に下げて、積み込み、積み降ろしをしてください。
- 副変速レバーは必ず「低速（収穫）」で行ってください。
積み込み、積み降ろし中は、副変速レバーを、「高速（走行）」「低速（収穫）」へ切り換えしないでください。
- 積み込み、積み降ろしの際は、コンテナ台を収納し、機体上にものを乗せないでください。また、大変危険ですので絶対に機械に乗車しての操作はしないでください。
- 積み込み、積み降ろし中は、絶対にアユミ板の下へは入らず、落下などの場合に危険回避できる状態で作業してください。



【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。

● 移動作業時の注意項目

移動時の確認

移動時は、堀取コンベアを持ち上げ、前側の左右コンテナ台は収納し、中側の左右コンテナ台は取外し、後側コンテナ台・空コンテナ台は作業状態にしてください。また、助手席および補助席は格納し、乗車しないでください。

【守らないと】

転落事故を起こすことがあります。



旋回時の前後左右の確認

- 旋回する場合は、機体の前後・左右に十分注意して行ってください。特に、その場旋回（スピントーン）のときは、後方が大きく動きますので、後方の確認を十分行ってください。
- 副変速レバーが「高速（走行）」でのその場旋回（スピントーン）は大変危険ですので、必ず「低速（収穫）」に切り換えて行ってください。
- 移動時には、助手席・補助席には乗らないでください。

【守らないと】

思わぬ事故をまねくおそれがあります。



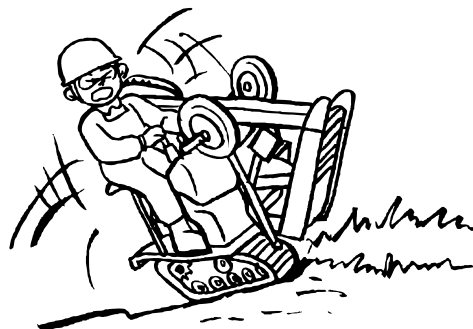
▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

坂道は走行注意

- 急な傾斜地では、速度を落とし、前後・左右のバランスに十分注意して走行してください。下り坂の場合は、後向きで、上り坂の場合は、前向きで走行してください。
- 機械が前後左右とも 5° を越える傾斜地を移動するときは、機体から下りて操作してください。
- 坂道では、副変速レバーの「高速（走行）」「低速（収穫）」への切り換えは絶対しないでください。

【守らないと】

バランスを崩し、転落などの事故の原因となります。



圃場への出入り

- 圃場に入るときは、必ず速度を下げて、掘取コンベアを地面と接触しない程度に下げて、圃場に対して直角に出入りしてください。

本機は構造上、重心が前にありますので、圃場が道路より低い場合は後ろから、道路より高い場合は前から入ってください。

また出るときは、圃場が道路より低い場合は前から、道路より高い場合は後ろから出てください。

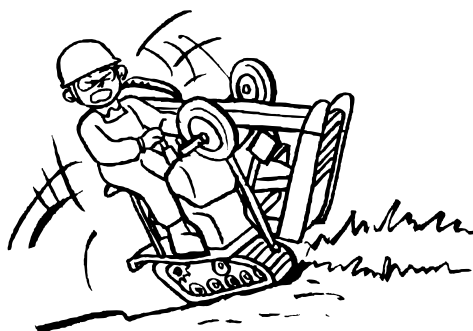
あぜや段差に対して斜め方向に進むと、横滑りや転倒する危険があります。

- 急な傾斜地や高い段差、又は溝ごえなどの場合は、必ずアユミ板を使用してください。

また危険ですので乗車しないでください。

【注意しないと】

転落事故を起こすことがあります。

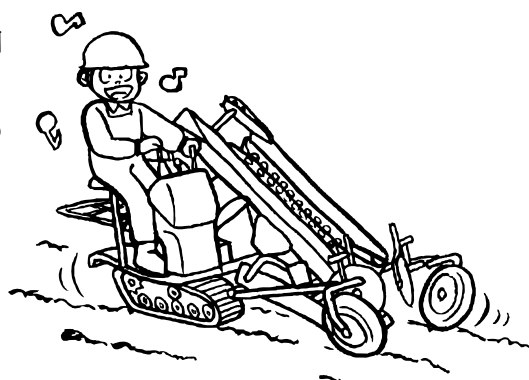


居眠り運転、わき見運転の禁止

- 居眠り運転、わき見運転をしないようにあらかじめ体調を整えてください。
- 前進・旋回・後進のときは周囲の人に合図をし、機械の付近に人がいないか、安全を十分確かめて作業をしてください。

【守らないと】

傷害事故の原因になります。

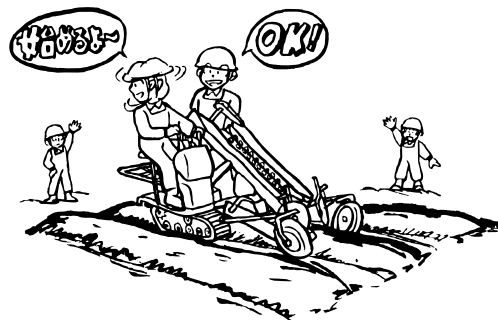


▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

合図で安全確認

二人以上で共同作業を行う場合は、お互いに合図して、十分に安全を確認した上で作業を行ってください。

エンジン音で合図が聞こえないことがあります。安全確認は十分に行ってください。



掘取部、クローラに手を近づけない

掘取部・クローラなどの危険な部分に、接触しないよう十分注意してください。

特に掘取コンベアと選別コンベアのすき間に手を入れないように注意してください。

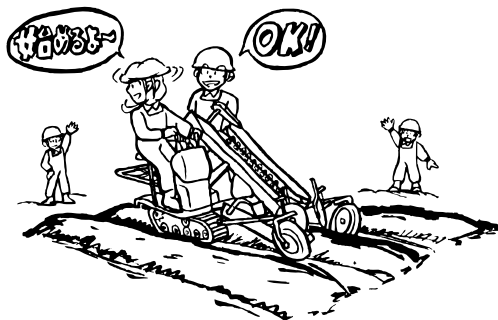
【守らないと】

コンベアに手を巻き込まれ、傷害事故をまねくおそれがあります。



掘取作業中の注意

- 掘取コンベアの昇降をするときには、共同作業者との安全確認を十分行ってください。
- 作業クラッチレバーが「入」の状態では、掘取コンベアの昇降位置により、コンベアが回転しますので注意してください。
- 掘取り作業中は、絶対に副変速を「高速（走行）」で使用しないでください。
- 故障・異常に気付いたら、直ちに作業をやめ、修理してから使用してください。



▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

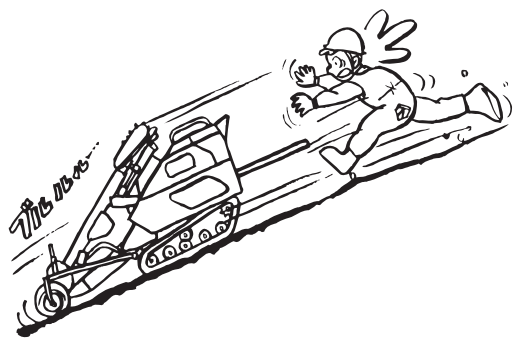
坂道では駐車禁止

点検を行う場合は、平坦な場所へ機械を止め必ずエンジンを停止してから行ってください。

やむを得ず傾斜地にて行う場合は、駐車ブレーキをかけ輪止めをしてください。

【守らないと】

機械が動きだし、事故の原因となります。



高温部分に注意

エンジン部分（マフラ・ラジエーターなど）は高温になり、触れるとやけどする危険がありますので十分注意してください。

【守らないと】

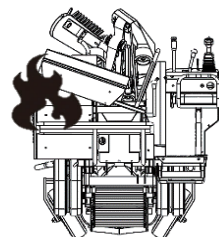
やけどをする危険があります。

高温部からの枯葉の除去

エンジン部分、マフラ周辺部、ベルトカバー内、バッテリー周辺等の高温部にたまっているねぎの枯葉を点検し、きれいに取除いてください。

【守らないと】

火災が発生するおそれがあります。



カバー類は元の位置へ

点検のために外したカバー類は、必ず元の通りに取付けてください。

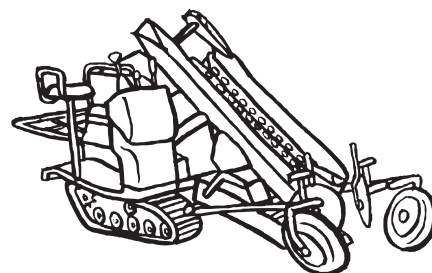
● 作業終了後、格納時注意事項

機械から離れるときは平坦な場所に置きエンジンを止める

- 機械から離れる場合には、平坦な場所へ機械を止め、掘取コンベアを降ろした状態にして、エンジンを停止し、キーを抜いて保管してください。
やむを得ず傾斜地にとめた場合は、駐車ブレーキをかけ輪止めをしてください。
- 他人（特に子供）に危険が及ばないように注意してください。

【守らないと】

機械が動きだし、事故の原因となります。



▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

傾斜地での走行・作業は機体から降りて

- 機械が、前後左右とも 5° を越える傾斜地を移動するときは、機体から降りて操作してください。
- 本機には傾斜警報装置がセットされており、一定以上の傾斜になるとブザーで危険を知らせるようになっています。
ブザーが鳴ったら作業を中断し、本機が水平になるようにしてください。（急旋回時にブザーが鳴る事がありますが異常ではありません。）

【守らないと】

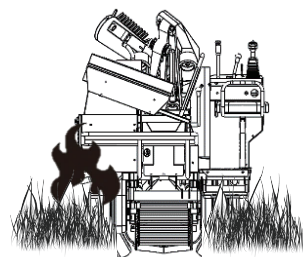
守らないとバランスをくずして転倒し、傷害事故の原因になります。

枯れたねぎや雑草の上に機械を止めない

機械を止める場合には、枯れたねぎや雑草のない平坦な場所に機械を止めてください。

【守らないと】

枯れたねぎや雑草は燃えやすく、火災が発生するおそれがあります。

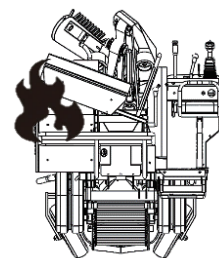


カバー（おおい）は高温部が冷えてから

機体にカバー（おおい）をかけるときは、エンジン、マフラが冷えてからかけてください。

【守らないと】

火災が発生するおそれがあります。

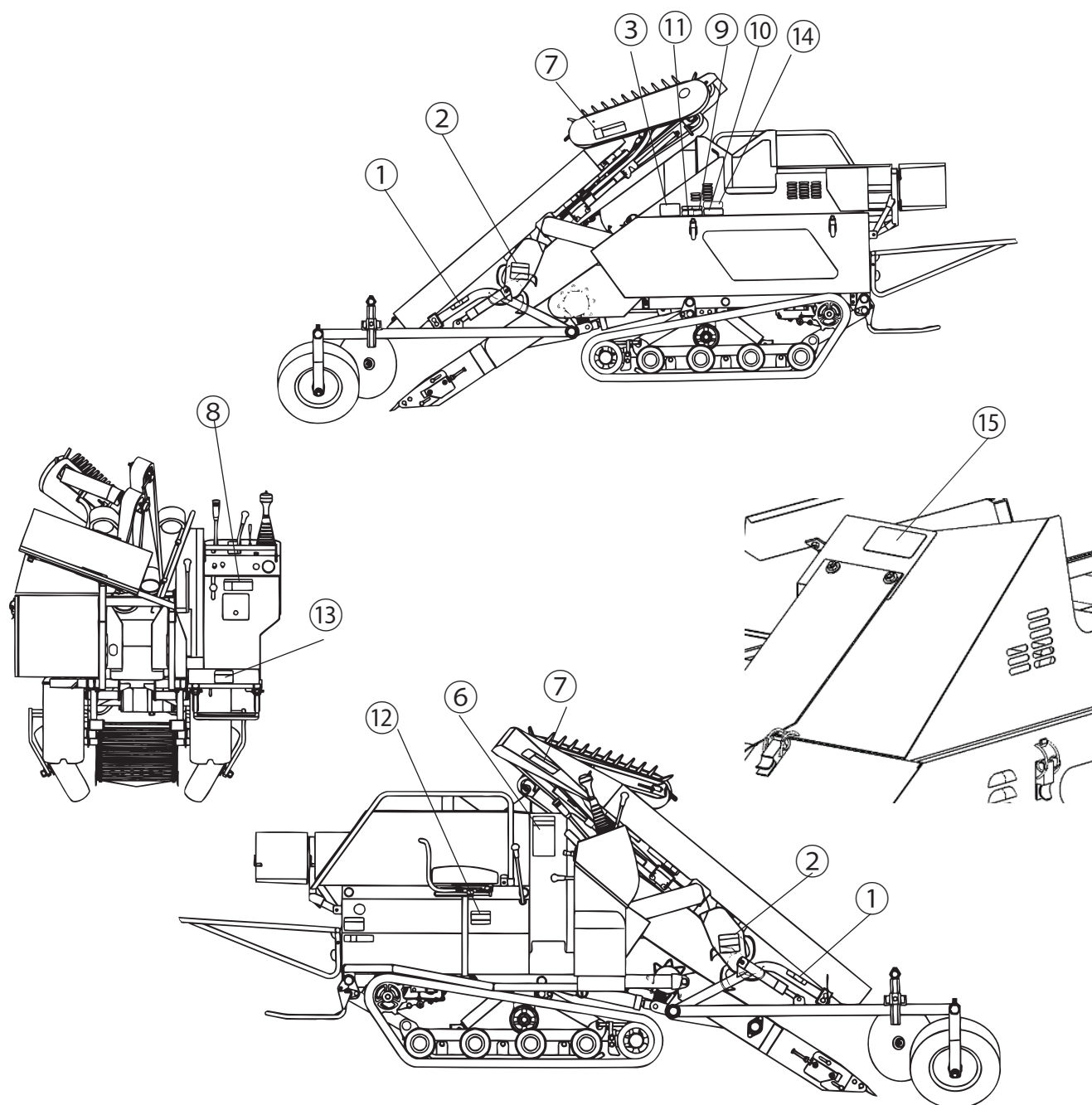


安全ラベルの取扱いおよび貼付位置

1. いつも汚れや泥をとり警告がハッキリと見えるようにしてください。
2. 安全ラベルが損傷したり破損したなら、新しいものと交換してください。
3. 安全ラベルを貼ってある部品を交換した時は、必ず新しい部品に、取外した部品と同じ場所に安全ラベルを貼ってください。

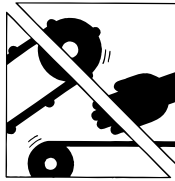
下記に示す安全ラベル以外にもラベルがありますので同様に取扱ってください。

ラベルに書かれている内容をよくお読みになって、理解した上で作業してください。



① コードNo.9992116

警告



- コンベア間に手を入れないようにしてください。
- 巻き込まれて、ケガをするおそれがあります。

9992116

③ コードNo.9992235

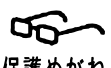
危険



火気厳禁



硫酸注意



保護めがね着用



取扱説明書熟読

バッテリーの取扱いに注意

- ショートやスパークに注意してください。また裸火は絶対に近づけないでください。水素ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- バッテリー液が皮膚や衣服についたときは、ただちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは水洗い後、医師の診察を受けてください。放置しておくことやけどや失明のおそれがあります。
- バッテリーの取扱説明書をよく読み、安全で正しい取扱いをしてください。

9992235

② コードNo.9992862

警告



回転部に接触すると、ケガをするおそれがありますので、回転部に近づかないでください。

9992862

④ コードNo.9992117

注意

- 移動時は乗車しないでください。
- 転落してケガをするおそれがあります。

9992117

⑥ コードNo.9992864

注意

使用前に取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。

1. エンジンを始動する前にクラッチレバー類を切または中立の位置にしてください。
2. 自然通気が悪い所や十分な換気が出来ない所でのエンジン始動あるいは作業をしないでください。
3. 移動およびメンテナンス時、収穫部が下がらないように収穫部ロックレバーをロックしてください。
4. 点検整備時にはエンジンを止め、各部が完全に停止してから行ってください。
5. 公道は走れません。
6. 危険ですので移動時にはシートを前向きにロックして運転してください。
7. 移動時には運転者以外乗車しないでください。
8. トラックへの積み込みは前進で行ってください。
9. 急な傾斜地は速度を落としバランスを考慮して走行してください。
10. やむをえず、傾斜地・坂道で駐車する場合は必ず駐車ブレーキをかけ、輪止めをしてください。
11. コンテナ台の積載重量は100kg以下を厳守してください。

9992864

⑤ コードNo.9992863

警告



●コンテナ台には乗らないでください。けがをするおそれがあります。

9992863

⑦

コードNo.9992227

	⚠ 注意
	1. 回転物に接触するとけがをするおそれがあるので、搬送ベルト・プーリには、さわらないでください。 2. 点検調整時はエンジンを必ず止めること。 9992227

⑧

コードNo.9992482

⚠ 警告	
 あゆみ板	蘆あぜや障害物を越えるときは、転落のおそれがあるので、次の事項を守ること。 1. 速度は低速にすること。 2. あぜや障害物は直角に越えること。 3. 障害物高さが10袍以上のときは、段差の4倍以上の長さで滑り止めがある丈夫なあゆみ板を使用すること。 9992482

⑫

コードNo.9992915

⚠ 注意	
作業時 	移動時 
蘆移動時にはシートを前向きにしてシートパイプ下端のロックをして運転してください。 9992915	

⑨

コードNo.9992105

⚠ 警告		排ガスに注意
		室内および換気の悪い場所での運転は排ガスが充満し、人体に有害です。 9992105

⑬

コードNo.9992893

⚠ 注意	
蘆作業時は、補助ステップに乗って作業しないでください。 蘆転落してケガをするおそれがあります。 9992893	

⑩

コードNo.9992096

⚠ 危険	 火気厳禁	蘆給油口に火を近づけると火災になるおそれがあります。蘆給油中は、エンジンを停止してください。 9992096	ガソリン

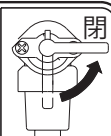
⑪

コードNo.9992110

⚠ 注意		マフラー高温注意
		さわるとやけどをするおそれがあります。 9992110

⑭

コードNo.9994528

⚠ 危険		蘆作業終了後は燃料コックを閉じてください。	
		蘆燃料がオーバーフローすると火災になる恐れがあります。 9994528	

⑮

コードNo.9994725

⚠ 警告	
●作業後、エンジン本体、マフラー周辺部、バッテリー周辺部配線部にたまっているねぎはきれいに取除いてください。火災の原因になります。 ●火災のおそれがあるので、機械を停止する時はわらくずや雑草の上に停めないでください。 9994725	

サービスと保証について

1 保証書について

- 1-1** 本製品には保証書が添付してあります。保証書はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。

保証内容は保証書をご覧ください。お読みになった後は大切に保管してください。

2 アフターサービスについて

- 2-1** 機械の調子が悪いときに点検、処置しても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げ頂いた販売店、農協、弊社営業所までご連絡ください。

その際

- ① 機械の型式名と製造機械番号
- ② ご使用状況（作業速度、回転速度はいくらで、どんな作業をしていたときに）
- ③ どのくらい使用されましたか（約〇〇時間使用・約〇〇アール）
- ④ 不具合が発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えてください。



製造機械番号

3 補修用部品の供給年限について

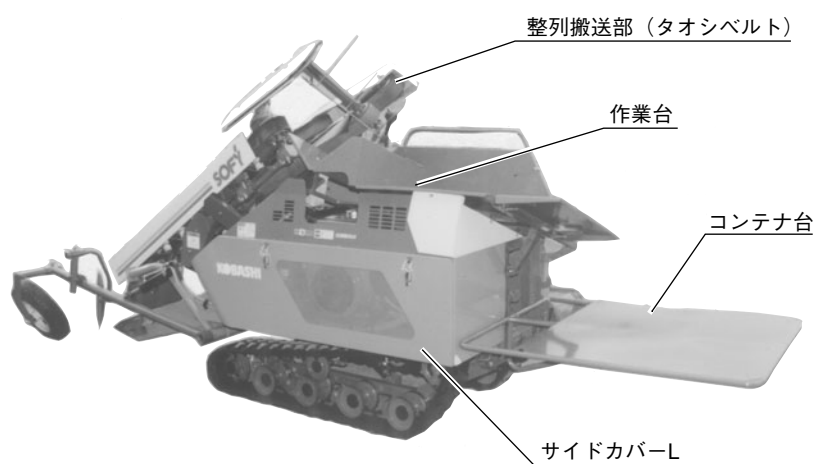
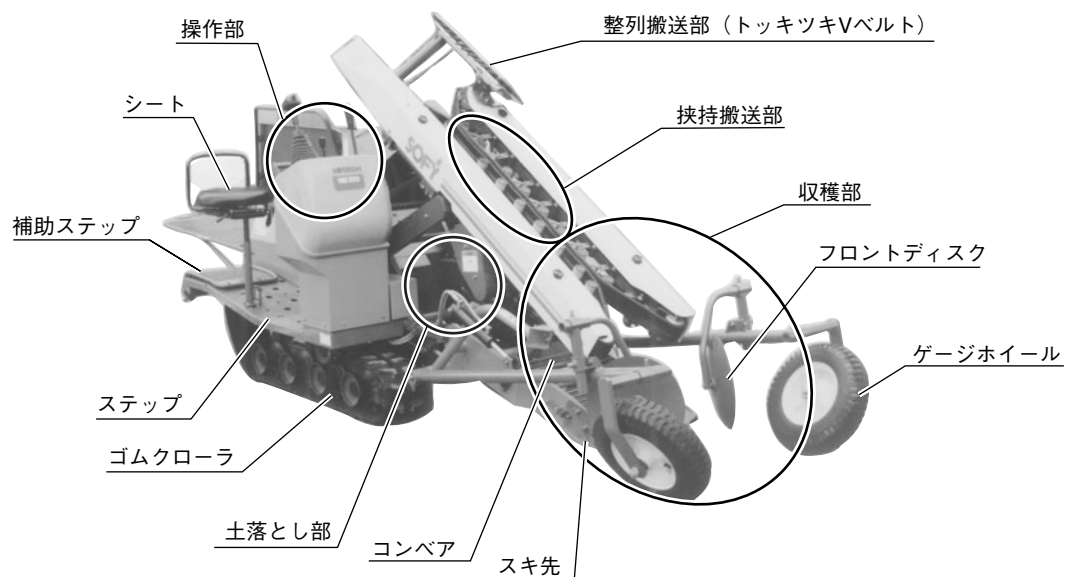
- 3-1** この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後9年といたします。
従いまして、その後のご注文に対しては、在庫限りの供給とさせていただきます。

4 純正部品を使いましょう

- 4-1** 補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

- 4-2** 部品の改造は事故の発生、機械の故障の原因となりますので、決してしないでください。

各部の名称

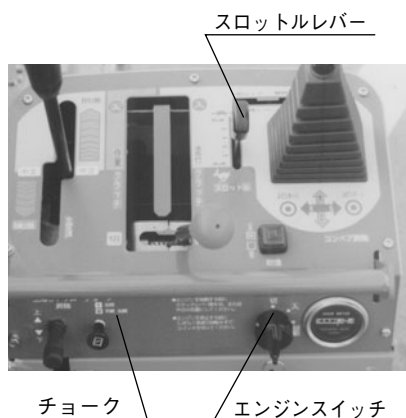


レバー関係の操作方法



1. エンジンスイッチ

- 1-1 キーをエンジンスイッチに差し込み、「ON」の位置にします。さらに右（スタート位置）へ回すとエンジンが始動します。
- 1-2 始動後、エンジンスイッチのキーから手を離してください。キーは自然に「ON」の位置に戻ります。



2. チョーク

- 2-1 寒いときやエンジンが冷えているときは、いっばいに引いてください。
- 2-2 暖かいときや、運転停止直後に再始動する場合は半分引くか、もしくは引かないでください。

3. スロットルレバー

- 3-1 エンジン回転を調節します。

エンジン回転が下がる →

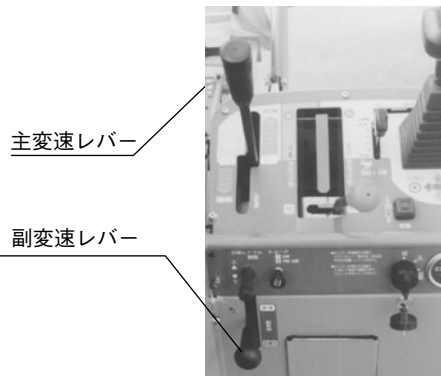


← エンジン回転が上がる

4. 変速レバー

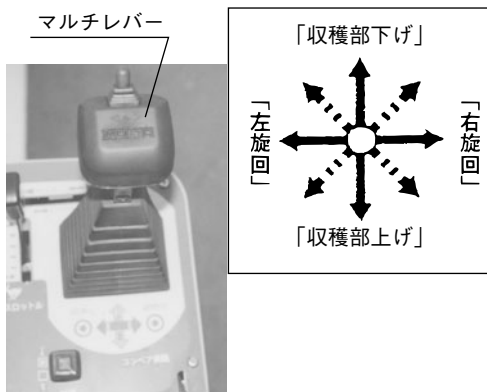
主変速レバーと副変速レバーで速度を調節します。

- 4-1 主変速レバーは、「中立」の位置が中立で、前に押すと前進し、左に倒し手前に引くと後進します。速度は倒す角度によって速くしたり遅くしたりできます。
- 4-2 副変速レバーは、中央が中立で、上にすると「高速」に、下にすると「作業（低速）」になります。



5. マルチレバー

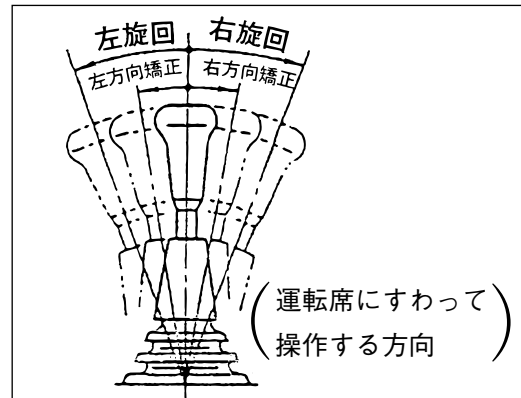
- 5-1 方向を変えたり、旋回するときや収穫部を上下するとき 사용합니다。



- 5-2 レバーを前・後に操作すると、収穫部の上げ下げができます。
- レバーを左・右に操作すると、方向修正から旋回までできます。
- レバーの倒し量に応じて、ゆるやかな方向修正からその場旋回まで、条件に合わせて操作してください。

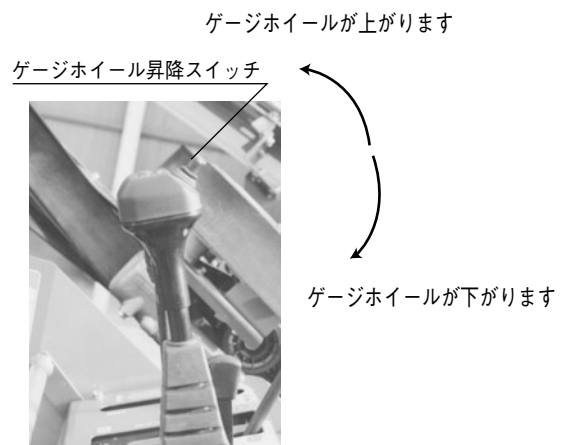
*ゆるやかな方向修正…左・右に軽く倒します

*その場旋回……………左・右一杯に倒します



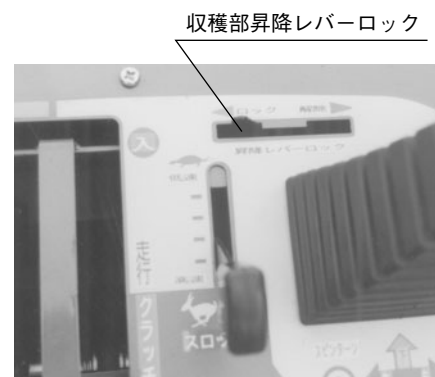
6. ゲージホイール昇降スイッチ

- 6-1 ゲージホイールの高さを調節します。



7. 収穫部昇降レバーロック

- 7-1 収穫部を上げたときには、エンジン運転中はマルチレバーを「下」にすると、収穫部が下がりますので安全のため昇降レバーロックを「ロック」の位置にし、マルチレバーが前後に動かないようにしてください。

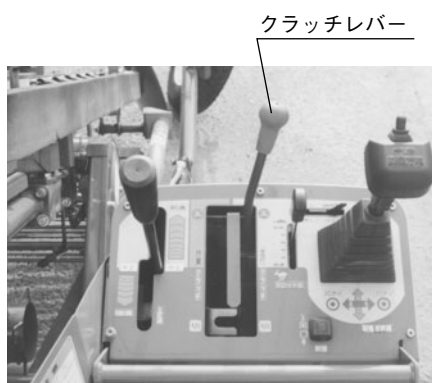


⚠ 注意

レバーをロックしていても長時間放置すると収穫部は少しずつ降下しますので、格納時は、スキ先が接地するまで下げてください。

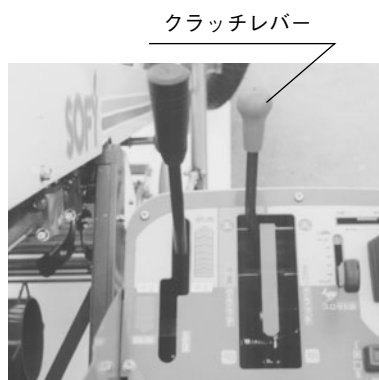
8. 走行クラッチ

- 8-1 収穫作業時以外は、クラッチレバーを走行クラッチ側にして動力の「入」「切」をしてください。手前に引くと「切」、前に押すと「入」になります。



9. 作業クラッチ

- 9-1 収穫作業時は、クラッチレバーを作業クラッチ側にして動力の「入」「切」をしてください。
- 作業クラッチを入れると、走行と収穫部・搬送時が同時に働きます。



⚠ 注意

作業クラッチを「入」にするときは、必ず副変速レバーが「作業低速」になっていることを確認してから行ってください。

10. 機体傾き自動スイッチ

- 10-1 このスイッチで機体傾き自動制御の「入」「切」を行います。
- 10-2 収穫作業するときは、エンジンを始動した後に副変速を作業低速にしてスイッチを「入」にしてください。ランプが点灯し自動制御状態になります。
- 10-3 エンジンスイッチを「切」にすると安全のためランプが消灯し、自動制御状態でなくなります。

取扱上の注意

- ① エンジンを始動する度にスイッチ操作が必要です。
- ② 機体が左右に 8° 以上傾くと自動スイッチが「入」の状態でも水平になりません。

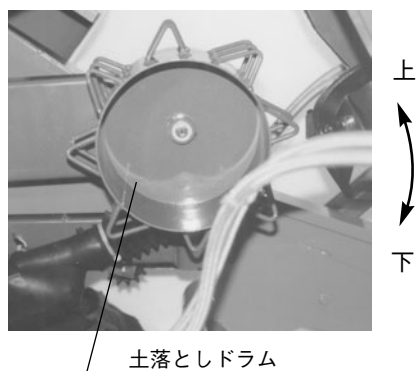
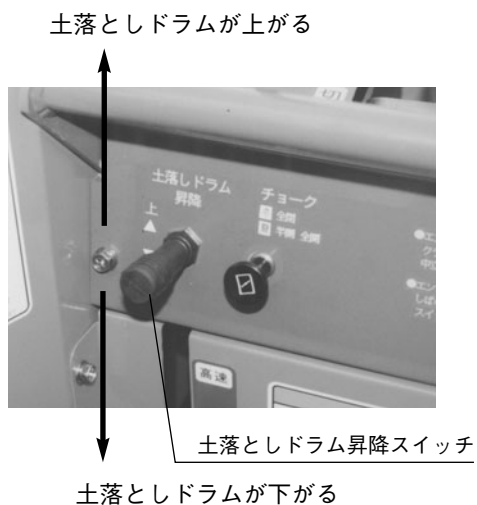


▲ 注意

- ① 機体が水平になったことを確かめてから機体傾き自動制御を切ってください。
- ② 副変速レバーを高速位置にするとランプは点灯したままで自動制御状態でなくなりますので、副変速レバーを高速位置にするときは、機体を水平にしてから行ってください。
機体が傾いたままで走行しないでください。
- ③ 機体傾き自動スイッチは、収穫作業以外では危険なので「入」にしないでください。

11. 土落としドラム昇降スイッチ

11-1 土落としドラムの高さを調節します。



12. 駐車ブレーキレバー

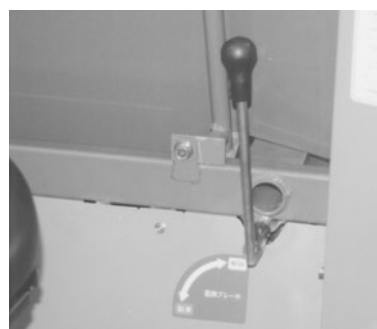
12-1 レバーを後方に倒せば駐車ブレーキがかかります。

駐車ブレーキがかかる



駐車ブレーキレバー

駐車ブレーキが解除される

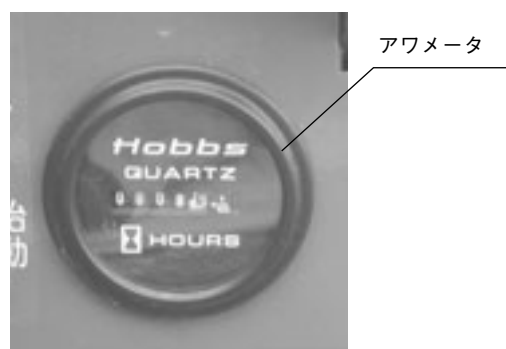


取扱上の注意

走行する前には、必ず駐車ブレーキレバーが解除されていることを確認してください。

13. アフメータ

13-1 使用時間を示すメータです。エンジンスイッチを「ON」にすると作動します。
時間表示は最小桁が1/10時間です。エンジンを停止したとき、エンジンスイッチを「ON」のままにしておきますと、メータが積算されますので、必ず「OFF」にしてください。



始業点検

※機械を調子よく長持ちさせるためには、毎日の作業前に必ず行いましょう。

⚠ 注意

点検は必ずエンジンを停止させて行ってください。

⚠ 警告

エンジンカバーを開いて点検するときは、マフラー高温の為マフラー及びその付近に触れないでください。

HSTのファン等回転部に触れないでください。

点検後は、必ずエンジンカバーを締めてください。

⚠ 危険

燃料・オイルには火気を近づけないよう注意してください。

1. エアクリーナの汚れ清掃

- 1-1 空気中の塵埃を取り除き、エンジンにきれいな空気を供給するエアクリーナエレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、運転に不調をきたすことになります。

⚠ 注意

エアクリーナエレメントが汚れたまま使用を続けたり、エアクリーナエレメントを外して使用されますと、エンジンの寿命を極端に短くしますので、定期的な清掃、交換を行ってください。

オイルバス式クリーナの場合、オイルパンのオイルが汚れたり、なくなったまま使用されますと、エンジンの寿命を極端に短くしますので、定期的な清掃、交換を行ってください。OIL LEVEL の線までエンジンオイルを入れてください。

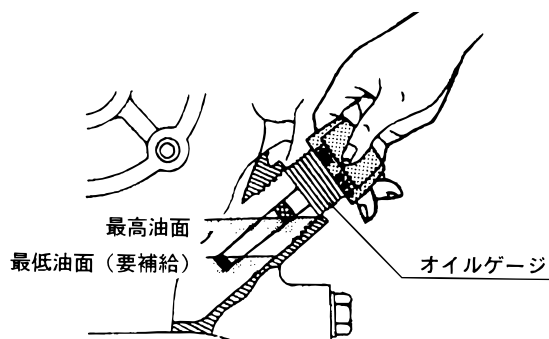
- 1-2 エアクリーナの清掃方法は（P41）の項を参照してください。

- 1-3 清掃後は元通りに組付けてください。

2. エンジンオイルの量と汚れ

- 2-1 エンジンオイルが汚れていたり、少なかったり品質の悪いものを使用しますと、エンジンの寿命を縮めます。オイルゲージで規定量あるか調べます。不足しているときは規定量まで入れてください。

（出荷時には、SAE10W-30を入れています）



エンジンオイルは口もといっぱいまで入れてください。

- 2-2 補給後、オイルゲージを確実に締めてください。

3. 燃料の有無及び油漏れ

▲ 危険

燃料を補給するときは、エンジンを停止し、くわえタバコ・裸火照明は、絶対にしないでください。

また、燃料をあふれさせないように注意し、もしこぼれたら完全に拭き取ってください。

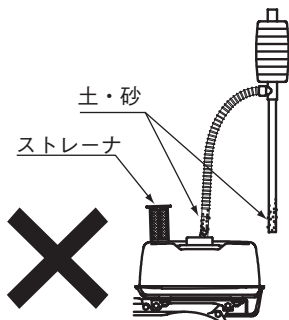
- 3-1 燃料が満タンになっているか燃料計で確認してください。
- 3-2 不足している場合には、燃料キャップを外して、給油口より満タンに入れてください。
- 3-3 補給後、キャップを確実に締めてください。
- 3-4 なお、機械各部より燃料漏れの無いことも調べてください。

取扱上の注意

燃料を給油する時は以下の事を必ず守ってください。

- 1. 燃料タンク給油口のストレーナを取外して給油しないでください。
- 2. 携行缶の給油口や給油ポンプに土、砂などの異物が付着したままの状態、給油しないでください。

燃料タンクに土や砂などの異物が混入した場合、それがキャブレターに到達すると、ニードル弁に引っかかって、燃料がオーバーフローすることがあります。



4. 各部のボルトのゆるみ

- 4-1 ゆるんだボルト・ナット等は増締めしてください。

5. チェンへの注油

- 5-1 作業前には各チェンへ注油してください。

▲ 注意

回転部などへ注油するときは、必ずエンジンを停止してください。ケガをするおそれがあります。

6. 高温部からの枯葉の除去

▲ 危険

マフラや排気管等の高温部にねぎの枯葉が付着したり引っ掛かった状態で機械を運転すると、枯葉に引火して燃える恐れがあります。

エンジンを始動する前にサイドカバーを開け、高温部に枯葉がないか必ずチェックをし、あればきれいに除去してください。



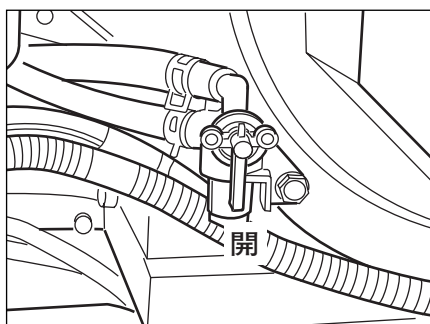
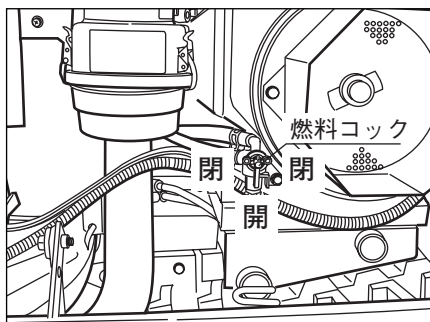
- 6-1 始業前にサイドカバーを開け、ねぎの枯葉が高温部の近くにはないか確認してください。
- 6-2 高温部の近くにある場合は、きれいに除去してください。
- 6-3 ねぎの枯葉がマフラ周辺に溜ると冷却風の流がさえぎられ、マフラが異常高温となり枯葉に引火する恐れがあります。

上手に作業するには

1 運転の要領

1. 始動のしかた

1-1 燃料コックを「開」にしてください。



1-2 作業クラッチ、走行クラッチを「切」にしてください。

作業クラッチ

走行クラッチ



取扱上の注意

「切」になっていないと、セルモータが回らない構造になっています。

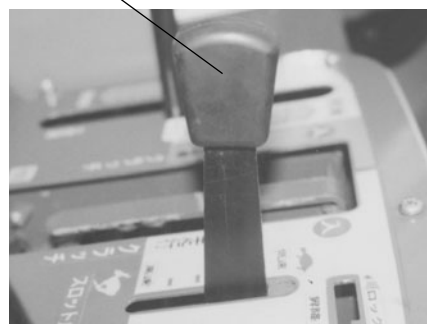
1-3 主変速レバーを中立位置にしてください。

主変速レバー



1-4 スロットルレバーを低速から高速の方向に、約1/3開いた位置にしてください。

スロットルレバー



1-5 チョークレバーを引いてください。

寒いときやエンジンが冷えているときは、いっばいに引いてください。
暖かいときや運転停止直後再始動する場合は、半分引くか、もしくは引かないでください。

チョークレバー



- 1-6 エンジンスイッチを「スタート」にします。
セルモータは大電流を消費しますので、
10秒以内に始動しなかった場合は、いったん
スイッチを切って、1分以上休止してから再
度始動させてください。

- 1-7 エンジンが始動したら、チョークレバーを戻
してください。
チョークレバーはエンジンの調子を見ながら
徐々に戻し、最後には必ず完全に戻してくだ
さい。

2. 発進のしかた

- 2-1 主変速レバーを中立位置に、副変速レバーを
「作業低速」または「高速」にしてください。

▲ 注意

副変速レバーが走行の位置にある場合は、
急発進する恐れがありますから、必ず主変
速レバーを中立位置にしてください。

- 2-2 駐車ブレーキを解除してください。
- 2-3 クラッチレバーを走行クラッチ側にして「入」
にします。



- 2-4 主変速レバーを前進または、後進にゆっくり
レバーを倒してください。

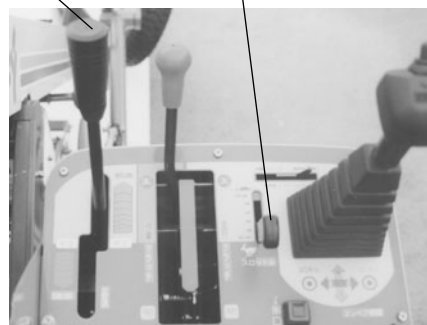
主変速レバー



3. 走行のしかた

- 3-1 走行中は、主変速レバーとスロットルレバー
でスピードを調節してください。

主変速レバー スロットルレバー



- 3-2 「高速」と「作業低速」の切り換えは、走行
クラッチを「切」にした状態で行ってくだ
さい。

走行クラッチレバー



副変速レバー

▲ 警告

急な坂道では「高速」「作業低速」副変速
レバーの切り換えは絶対にしないでくださ
い。

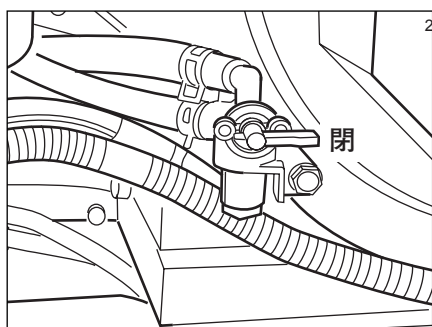
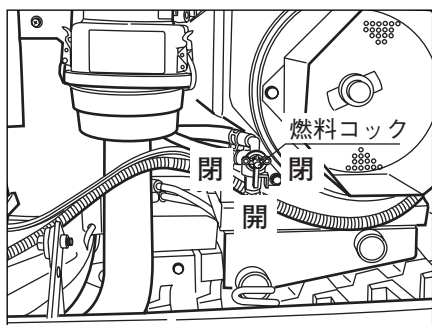
4. 停止のしかた

- 4-1 主変速レバーを「中立」の位置にしてください。
- 4-2 走行クラッチを切ってください。
- 4-3 スロットルレバーを「低速」まで戻し、エンジンスイッチを「OFF」にしてください。
- 4-4 駐車ブレーキをかけてください。



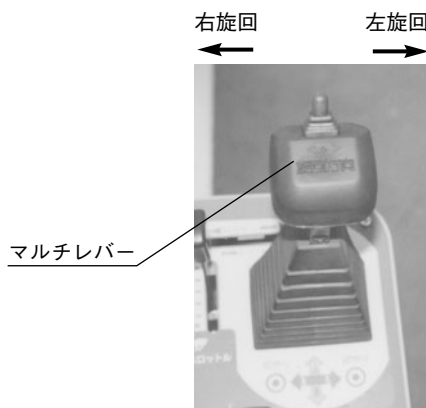
駐車ブレーキがかかる

- 4-5 燃料コックを「閉」にしてください。



5. 旋回のしかた

- 5-1 副変速レバーを「作業低速」にしてください。
- 5-2 曲がりたい方向にマルチレバーを倒してください。



マルチレバーは軽く倒すとクラッチが切れ、それから旋回用ブレーキが効き始めます。

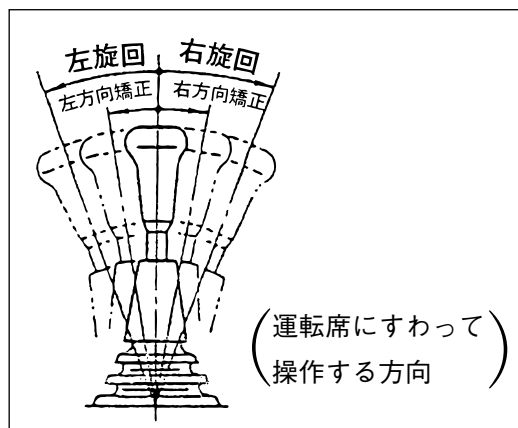
強く倒すと、ブレーキを完全にロックすると片側のクローラが逆転してその場旋回（スピントーン）となります。

マルチレバーを加減しながら（ブレーキを少しすべらしながら）効かすと、片側のクローラを止めて旋回となります。

レバーの倒し量に応じて、ゆるやかな方向修正からその場旋回まで、条件に合わせて操作してください。

*ゆるやかな方向修正…左・右に軽く倒します

*その場旋回……………左・右一杯に倒します



- 5-3 副変速レバーを「高速」で使用する場合は、その場旋回（スピントーン）はせず、クローラが逆転しない程度にマルチレバーを軽く倒して大きく回ってください。
- 小さく回る必要がある場合は、副変速レバーを「作業低速」にしてから、その場旋回（スピントーン）を行ってください。

▲ 警告

- ① 旋回する場合は、機体の前後左右に十分注意して行ってください。
特にその場旋回のときは、後方が大きく動きますので、後方の確認を十分行ってください、
- ② 「高速」でのその場旋回は、たいへん危険な上、機械にも大きな負担がかかり、故障の原因となりますので、その場旋回をする場合は、必ず「作業低速」に切り換えて行ってください。

6. 傾斜地、坂道の駐車

- 6-1 傾斜地や坂道での駐車はしないでください。
やむを得ず駐・停車するときは、駐車ブレーキをかけ、クローラに歯止めをしてください。

7. トラックへの積降ろし

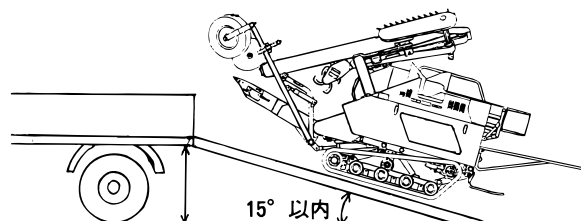
- 7-1 トラックが移動しないよう、しっかりとブレーキをかけてください。
- 7-2 丈夫な滑り止めをしたアユミ板を、ゴムクローラのトレッドに合わせ確実に固定してください。

▲ 警告

クローラに土が付着すると滑りやすくなりますので危険です。

▲ 警告

アユミ板は傾斜が15° 以内またはトラックの荷台の高さの3.5～4倍の長さのものを使用してください。傾斜がきつくなりますと大変危険です。



- 7-3 周囲に人がいないことを確認してください。
- 7-4 後側のコンテナ台は取り外してください。
- 7-5 収穫部は前後のバランスを見ながらアユミ板に接触しない程度に持ち上げ、前後のバランスを見ながら持ち上げ量を調節してください。
- 7-6 補助ステップは格納してください。
- 7-7 機械をアユミ板にまっすぐ合わせ、「作業低速」で積込みをしてください。

▲ 警告

本機は構造上、重心が前にあります。したがって、積み込みは必ず「前進」で、積み降ろしは「後進」で行ってください。

アユミ板の途中で、副変速レバーの「高速」「作業低速」への切り換えは絶対にしないでください。

アユミ板の途中で方向を変えたり、止まったりしないようにしてください。

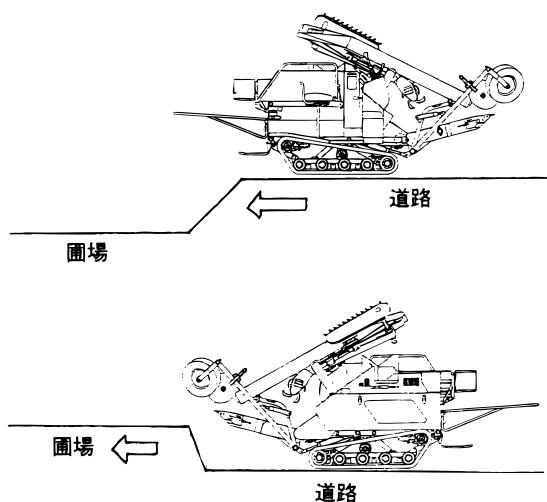


フック (左右2ヶ所)

- 7-8 積み込んだら駐車ブレーキをかけ、本機フックにロープをかけてしっかりと固定してください。
- 7-9 積み降ろしについては、積み込みと同じ要領で行ってください。

8. 圃場への出入り

- 8-1 圃場への出入りは、圃場に対して直角に出入りしてください。
- 8-2 本機は構造上、重心が前にありますので、圃場が道路より低い場合は後ろから、道路より高い場合は前から入ってください。
また出る時は、圃場が道路より低い場合は前から、道路より高い場合は後ろから出てください。



▲ 警告

急な傾斜地の場合、または溝越えなどの場合は、必ずアユミ板を使用してください。
また、危険ですので乗車しないでください。

9. 傾斜地での走行

- 9-1 傾斜地での走行は、平坦地に比べ特に危険です。
速度を下げ安全に運転してください。
- 9-2 急発進、急停止、旋回等は転倒の危険があります。ゆっくり操作を行ってください。
- 9-3 本機は構造上、重心が前にあります。したがって急傾斜地の登りは前進で行い、下りは後進で走行してください。収穫部を降ろし、重心を下げるのも安全走行の有効な手段です。

▲ 警告

1. 傾斜地や悪路では危険ですので機械に乗らないで歩きながら運転してください。
2. 本機には、傾斜警報装置がセットされており、約一定(約14°)以上の傾斜になるとブザーが危険を知らせるようになっています。ブザーが鳴るような急な傾斜地では、転倒の危険がありますので走行はしないでください。
3. 傾斜地では機体傾き自動スイッチは「入」に絶対しないでください。

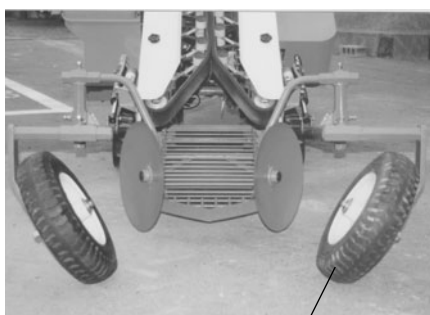
2 作業の要領

1. ゲージホイールの調節

取扱上の注意

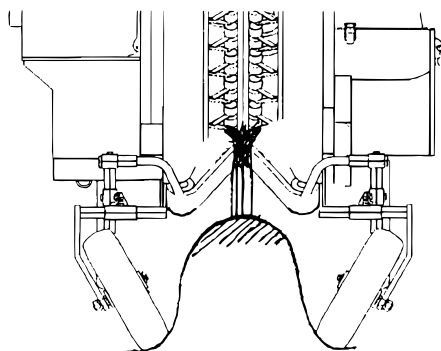
ゲージホイールは掘取り深さの安定と、本機をうねにそって自動走行する働きをしますので、必ずうね幅に合わせて取付幅を調節してください。掘取り深さが深すぎると、挟持搬送ベルトが土や異物を持ち上げ、ベルト及び搬送駆動部が破損する恐れがあります。

1-1 ゲージホイール幅の調節



ゲージホイール

ゲージホイール左右スライド部のロックナット・ボルトをゆるめ、ゲージホイールの内側がうねの底の固い部分と同じになるよう左右均等に調節して、ロックナット・ボルトを締めてください。ねぎがうねの中央にない時には、ゲージホイールをオフセットさせてください。

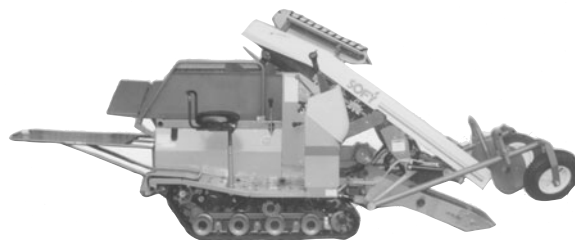


取扱上の注意

ここでの調節は、収穫作業をするための準備で目安です。

1-2 ゲージホイール高さの調節

ゲージホイールは一番上まで上げてください。

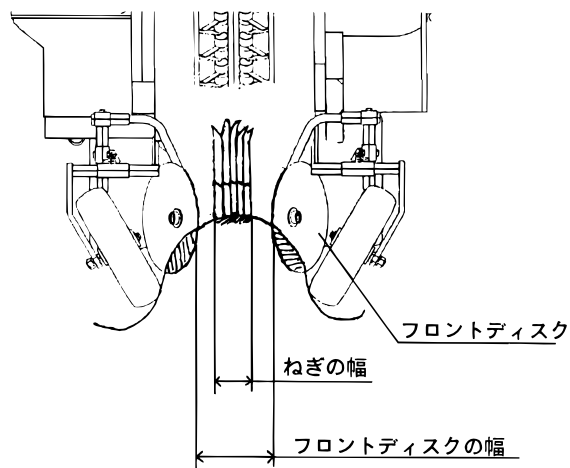


2. フロントディスクの調節

取扱上の注意

フロントディスクは、ねぎをベルトで挟持しやすくするために、うねの上部側面の土を取り除く働きをしますので、必ずうねに合わせて調節してください。

2-1 フロントディスクは、ねぎの幅より広くし傷めない幅に、ディスクの深さはディスク直径の1/3以内になるように調節し、ロックナット・ボルトで固定してください。



取扱上の注意

ここでの調節は、収穫作業をするための準備で目安です。

3. コンテナの配置

3-1 後方のコンテナ配置

選別方法に合わせてセットしてください。
ここでは選別例としてコンテナをあげました。



取扱上の注意

最大積載重量100kgを越えないよう注意してください。

▲ 注意

移動時は危険ですので、コンテナ台は取り外してください。
各コンテナ台は最大積載重量以下で前後左右バランスよく積んでください。
片荷での積載は破損の原因となります。

4. シート (座席) の調節

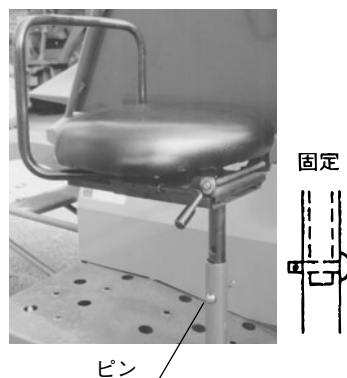
4-1 向きの調節

作業台の方にシートの向きをピンを上へ引いて変えてください。
ピンは必ず穴に差し込んでください。



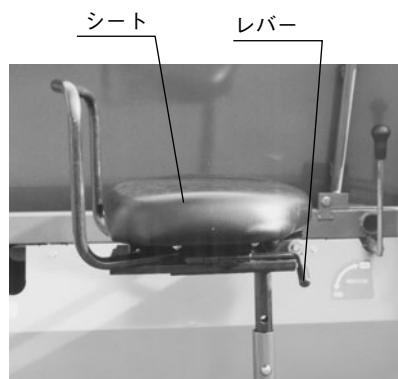
4-2 高さの調節

楽な作業姿勢になるようにピンを差し込み、
いすの高さを調節してください。



4-3 前後の調節

楽な姿勢、また乗降がスムーズにできるよう、
いすの前後調節ができます。



シートの右側の下にあるレバーを上にし、
シートを合わせてください。その時、レバー
が戻りシートが前後に動かないか確認してく
ださい。

4-4 角度の調節

作業姿勢に合わせてシートの角度が通常の時
と傾いた位置とに変えられます。





4-5 移動時

移動のときは、シートを前向きに固定してください。



4-6 作業時

- ① 作業開始前に、シートを横向きにすると同時に一番高い位置で固定し、座を傾けてください。



- ② 作業時は、しっかりとシートに体を保持させてください。



- ③ 作業位置から離れるときは必ず機械の走行を止めてください。



5. 収穫作業

5-1 作物条件と圃場条件

作物の条件・圃場の条件によっては、正常な収穫作業ができないことがあります。

作業に入る前に作物の状態や圃場の条件を確認して能率よく作業を行ってください。

作物の条件

機械の収穫に適する作物の条件は次の通りです。

① 作物

白ねぎ（根深ねぎ）

畝立て栽培した白ねぎ

品種によっては収穫できないねぎがあります。

- 曲がりねぎ
 - 下仁田ねぎ
- } 収穫できない

⚠ 注意

腐り始めた作物、曲がった作物、病虫害にかかっている作物は作業できません。

② 作物の水分

作物の葉のぬれ、状態によっては正常な作業
ができません。

良く乾燥させてから作業を行ってください。

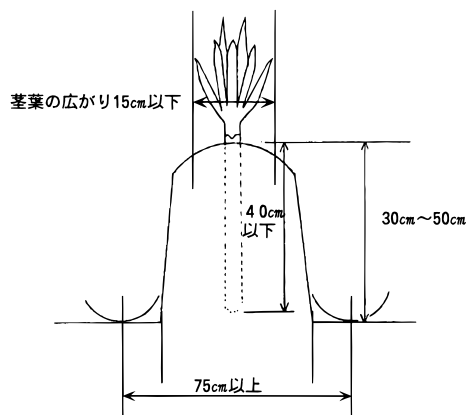
▲ 注意

- 雨天の日には作業しないでください。
各種のトラブルにつながります。

圃場の条件

機械の収穫に適する圃場の条件は次の通りです。
あくまで目安です。条件によっては収穫できな
いことがあります。

- ① 植付条件 : 1条
- ② 畝間 : 75cm以上
- ③ 畝高さ : 30cm～50cm



- ④ 圃場傾斜角度 : うね方向で3° 以内

取扱上の注意

本ねぎ収穫機は、小石が多い圃場では作業
しないでください。小石が噛み込んでコン
ベアが外れたり、コンベアフレームが破損
することがあります。

やむを得ず作業する場合は、コンベアの外れ
が無いチェックしながら作業してください。

▲ 注意

うねの谷に水がたまっているときは、作業
できないことがあります。

気温が極端に低くなると、ねぎが割れやす
く傷めることがあります。

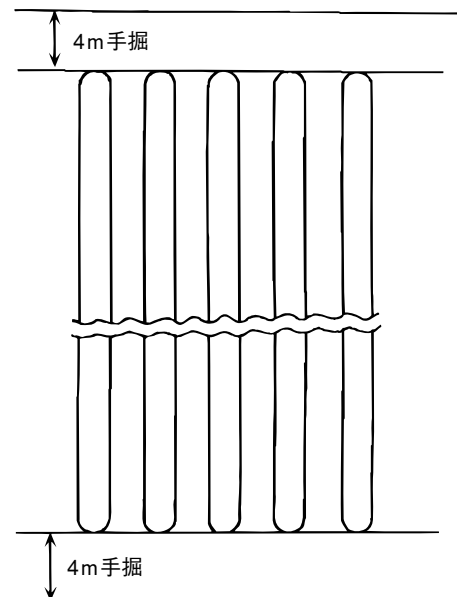
▲ 注意

夜間作業はできません。

5-2 収穫作業をする前には、次の作業が必要です。

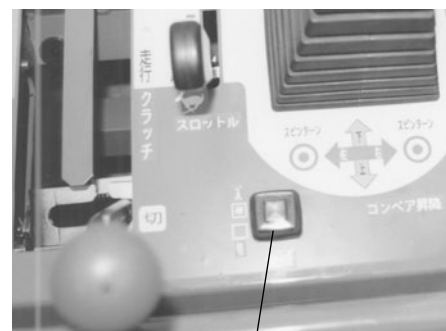
機械収穫作業では、圃場の両端に収穫機が旋
回するための枕地が必要です。

あらかじめ圃場の両端約4mを手などで掘り
取ってください。圃場の周囲が壁の場合は枕
地が余計に必用です。



5-3 機体傾き自動スイッチを「入」にしてください。

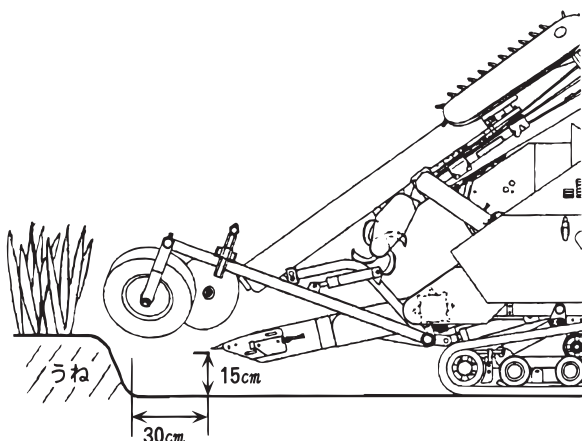
ランプが点灯し、自動制御状態になります。



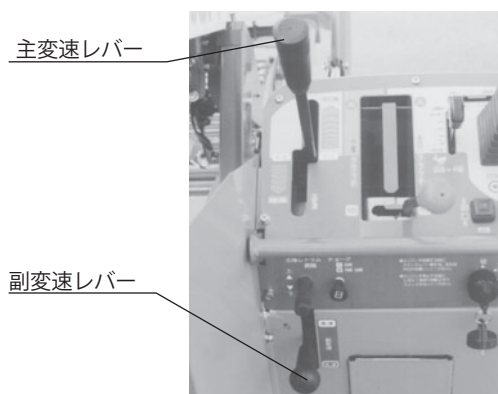
スイッチ

5-4 作物のうね中心と、コンベア中心が合うよう

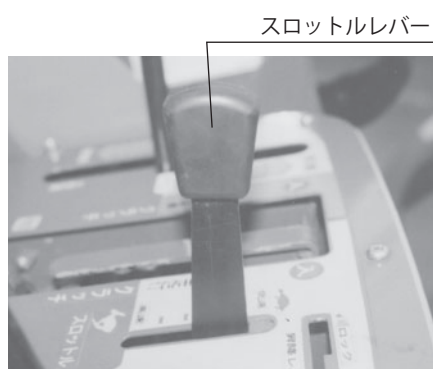
に圃場に入り、コンベア昇降レバーを「下」
にして、コンベアを地面より15cm位の高さで
止め、掘り始め手前約30cmでクラッチレバ
ーを「切」にして、一旦停止して作業の準備を
します。



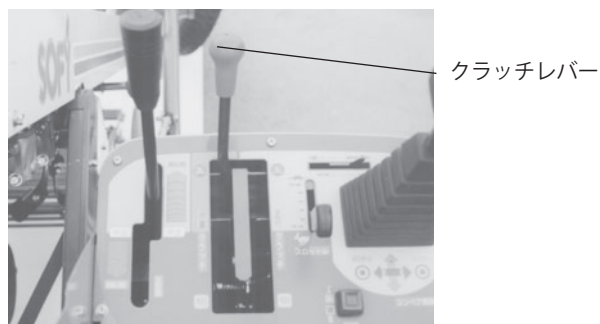
- 5-5 副変速レバーを「作業低速」、主変速レバーを「中立」位置に合わせてください。



- 5-6 スロットルレバーを目安として低速から高速の方向へ約1/2～2/3開いた位置にしてください。作業条件に合わせスロットルレバー位置を調節してください。



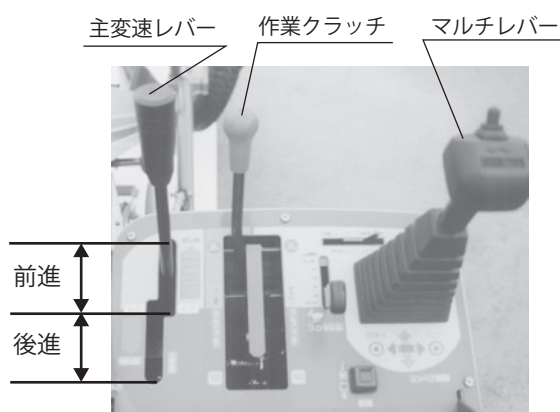
- 5-7 以上で作業準備ができました。クラッチレバーを作業クラッチ側の「入」位置にしてください。収穫作業を開始しましょう。



⚠ 注意

これから2人以上の機械掘取り作業となりますので、互いに合図をしながら安全を確認して、操作してください。

クラッチレバーを作業クラッチ「入」にし、主変速レバーを徐々に前進側に倒していくと収穫部の作動と同時に低速走行を開始します。



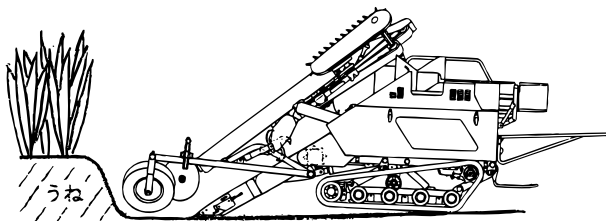
⚠ 注意

作業クラッチが「入」の時に、主変速レバーを後進側に倒すと作業クラッチが「切」に戻るようになっていました。主変速レバーが後進側になっているときは、作業クラッチは入りません。その時に、作業クラッチを無理に入れようとすると故障の原因になりますので絶対に避けてください。

マルチレバーを前方に倒し、コンベア先端をうねに入れていきます。

取扱上の注意

エンジン回転がスロットル1/2より低いと、バッテリー充電が出来なくなるおそれがあります。バッテリーが放電し電圧が下がると、水平制御のコントローラが落ちる原因となります。またHSTに過負荷をかけて故障の原因となります。



取扱上の注意

うねの溝の部分に合わせて枕地を整地しておく、収穫始めがやりやすくなります。

取扱上の注意

コンベアを急にうねに入れ過ぎるとコンベアに無理な力がかかり、コンベアが止まったり、ゴムクローラがその場でスリップします。ゆっくりと作業してください。

- 5-8 コンベアがうねに入り機体が水平になり、シリンダが完全に縮まったら、マルチレバーより手を離し中立にします。
クラッチを「切」にし、一旦停止してください。

- 5-9 ゲージホイール昇降スイッチでゲージホイールをうねの底につくまで下げてください。
その時、ゲージホイールの左右の位地を確認し、必要ならば調節してください。

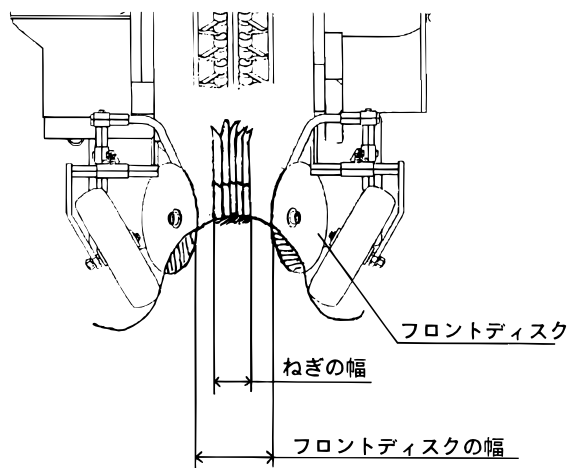
ゲージホイールが上がります

ゲージホイール昇降スイッチ

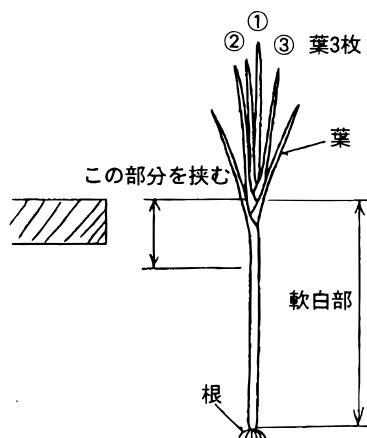
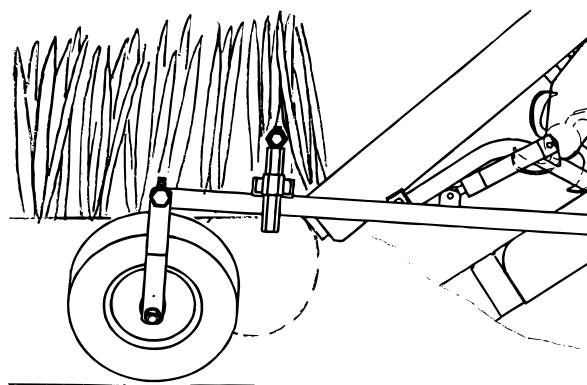
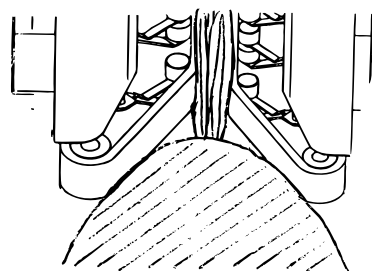


ゲージホイールが下がります

- 5-10 フロントディスクがねぎを傷めずにうねの上部側面の土が取り除けるように、取付幅と高さがなっているか確認し、必要ならば調節してください。



- 5-11 クラッチレバーを作業クラッチ「入」にし、主変速レバーを徐々に前進側に倒していき、ゲージホイール昇降スイッチで挟持ベルトがねぎの軟白部を挟むように上下に調節してください。



挟持ベルトが少しうねに食い込み気味の方がねぎを傷めずうまく収穫できます。

取扱上の注意

深く入れすぎると土を挟んでストップすることがあります。

- 5-12 掘取り深さが浅く、ねぎを切るときには、ゲージホイール昇降レバースイッチでゲージホイールをわずかに上げて掘取り深さを深くしてください。

ゲージホイールが上がります

ゲージホイール昇降スイッチ



ゲージホイールが下がります

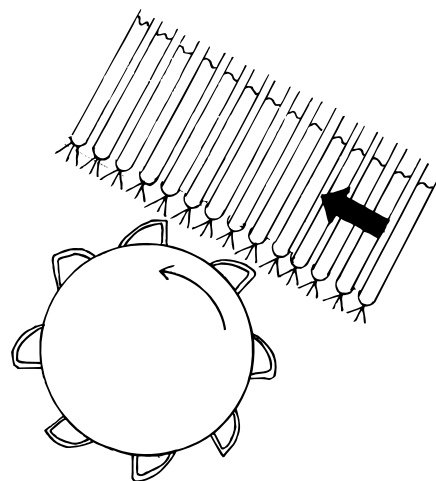
- 5-13 土落としドラムの高さ調節

土落としドラムは、ねぎの根に付いた土を落とし、根をある程度切断し、ねぎとねぎを分離する働きをします。

ねぎの根に付いた土の具合に合わせて土落としドラム昇降スイッチで土落としドラムの位地を調節してください。

取扱上の注意

土落としドラムの高さはねぎを傷めないように調節してください。この作業はその都度必要となります。

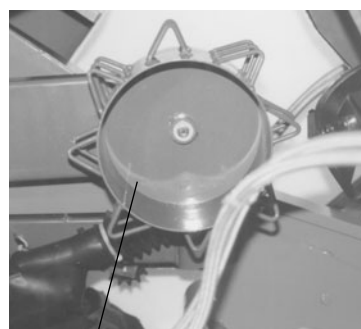


土落としドラムが上がる



土落としドラム昇降スイッチ

土落としドラムが下がる



土落としドラム

取扱上の注意

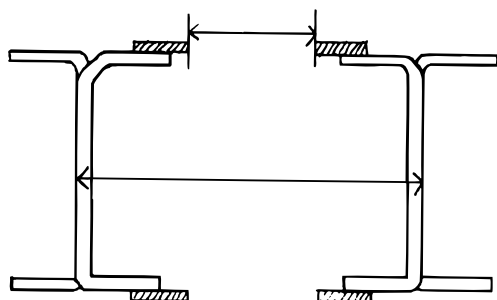
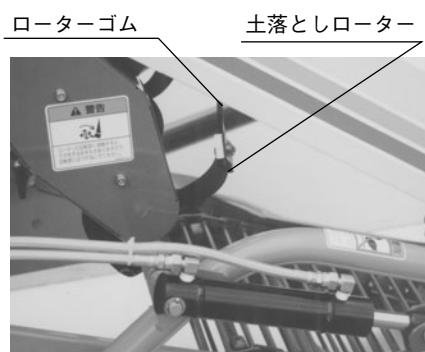
土落としドラムは消耗したら交換してください。

5-14 土落としローターについて

土落としローターは、コンベアで掘り上げた土をある程度砕いて運ぶ働きと、ねぎの根に付いた土を落とす働きをします。

取扱上の注意

土落としローターの取付位置は、ねぎの茎葉の広がりに合わせて、ねぎを傷めないように幅方向を調節してください。

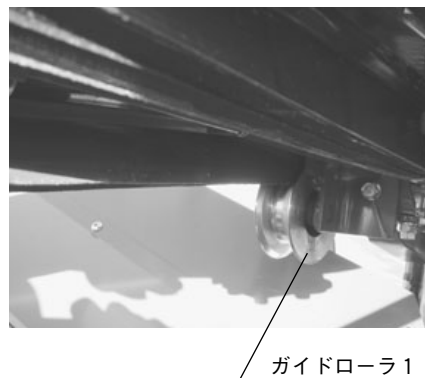


取扱上の注意

ローターとローターゴムは、消耗したら交換してください。

5-15 タオシベルトについて

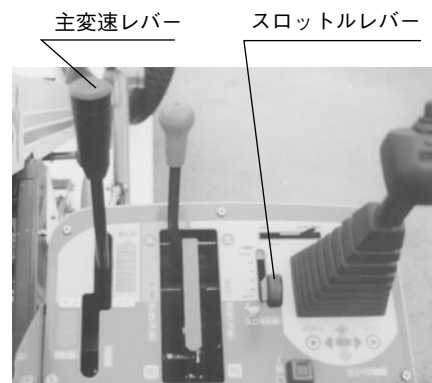
ガイドローラ 1 に付着した土や異物の除去をこまめに行ってください。ベルトの脱落、破損につながります。



P44 12の「整列搬送タオシベルトの調節」に従い、調整を行ってください。ベルトの脱落、破損につながります。

5-16 収穫作業が安定したところで収穫作業速度を主変速レバーとスロットルレバーで調節してください。

主に主変速レバーで調節してください。



取扱上の注意

無理なく、ねぎを傷めない作業速度で収穫してください。

6. 収容作業

6-1 作業台の使い方

収穫されたねぎは、整列搬送部で横に倒され、作業台のV形状のところに積重ねられる形でストックされます。

ストックされたねぎは、あらかじめ作業台の上に用意したコンテナか収穫布または、ひもの上に乗せ結束または、収容してください。上記の収容方法は、あくまでも参考例です。収容方法に合わせて使ってください。

ひもを使用する場合は、作業台にひもをかける金具が付いています。

後方の延長作業台は、ボルトで角度が調節できます。必用に応じて調節してください。



▲ 注意

整列搬送部に手を入れないでください。

▲ 注意

作業台には乗らないでください。
転落してケガをするおそれがあります。

6-2 コンテナ台の使い方

収容方法に合わせて使ってください。

取扱上の注意

コンテナ台の積載重量は、100kg以下を厳守してください。

▲ 注意

コンテナ台には乗らないでください。
転落してケガをするおそれがあります。

こんなトラブルが起こったら

⚠ 注意 点検整備時は、エンジンを止め、各部が完全に停止してから行ってください。

どのような状態ですか

1. スタータが回転しないときには
2. スタータが回転してもエンジンが始動しないときには
3. エンジンの力が出ないときには
4. 収穫部が上がらないときには
5. ゲージホイールが上がらないときには
6. コンベアが作動しないときには
7. 挟持搬送ベルトが作動しないときには
8. タオシベルトが作動しないときには
9. トッキツキVベルトが作動しないときには
10. 走行クラッチレバー、作業クラッチレバーを「入」にしても走行しないときには
11. マルチレバーを倒しても旋回しないときには
12. 土落しドラムが昇降しないときには
13. キャブレーターから燃料がオーバーフローしたときには

	こんな確認をして	→	こう処理します
スタータが回転しない ときには	1. 走行クラッチレバーと作業クラッチレバーが「切」になっていますか 2. セーフティスイッチが作動していなかったり、取付けが緩んでいませんか 3. バッテリ接続部が緩んでいたり、外れたり腐食していませんか 4. バッテリが放電していませんか	→ → → →	走行クラッチレバーと作業クラッチレバーを「切」にし、エンジンイッチを「スタート」に回してください。 調節ボルトの調節、確実に取付けてください 接続部を清掃し、確実に取付けてください バッテリを満充電してください
エンジンが始動しない スタータが回転しても	1. 燃料が切れていませんか 2. 燃料フィルタが目づまりしていませんか 3. プラグキャップが外れていませんか 4. 点火プラグの火花は出ていませんか	→ → → →	ガソリンをを給油してください 燃料ストレーナを清掃してください プラグキャップを点火プラグに取付けてください 新しいプラグと交換してください
エンジンの力が出ないときは	1. エアークリーナが目づまりしていませんか 2. 燃料が不足していませんか 3. エンジンオイルが不足していませんか 4. 点火プラグが緩んでいませんか	→ → → →	エアークリーナを清掃、交換してください 燃料系統をチェックしてください エンジンオイルを規定量まで給油してください 点火プラグが緩んでいたら増締めしてください
収穫部が 上がらない時には	1. エンジン回転が不足していませんか 2. 油圧駆動Vベルトが切れているか、緩んでいませんか 3. コンベアが深く入り過ぎていませんか 4. 駆動Vベルトが緩んでいませんか	→ → → →	エンジン回転を少し上げてください 新しいVベルトと交換してください 後進してから油圧を上げてください Vベルトの張りを調節してください
ゲージホイールが 上がらない時には	1. エンジン回転が不足していませんか 2. 油圧駆動Vベルトが切れているか、緩んでいませんか 3. 駆動Vベルトが緩んでいませんか 4. ヒューズが切れていませんか	→ → → →	エンジン回転を少し上げてください 新しいVベルトと交換してください Vベルトの張りを調節してください ヒューズを交換してください。
コンベア作動が しない時には	1. コンベアが深く入り過ぎていませんか 2. 石等がかみこんでいませんか 3. コンベアが伸びていませんか 4. コンベア駆動チェンが緩んでいませんか 5. 駆動Vベルトが緩んでいませんか 6. HSTのオイルが少なくなっていないですか	→ → → → → →	ゲージホイールを下げて浅くしてください かみ込み物を取除いてください コンベアを張ってください チェンの張りを調節してください Vベルトの張りを調節してください HSTオイルを規定量入れてください

	こんな確認をして	→	こう処理します
挟持搬送ベルトが 作動しないときには	1. 挟持搬送ベルトが緩んでいませんか 2. 挟持搬送ベルトのテンションが外れていませんか 3. 駆動ローラに土が付着していませんか 4. 駆動チェンが緩んでいませんか 5. 駆動Vベルトが緩んでいませんか 6. HSTオイルが少なくなっていないですか	→ 挟持搬送ベルトの張りを調節してください → テンションを取付けてください → 駆動ローラの土を取り除いてください → チェンの張りを調節してください → Vベルトの張りを調節してください → HSTオイルを規定量入れてください	
タオシベルトが 作動しないときには	1. タオシベルトが緩んでいませんか 2. タオシベルトが外れていませんか 3. 駆動ローラに土が付着していませんか 4. 駆動チェンが緩んでいませんか 5. 駆動Vベルトが緩んでいませんか 6. HSTオイルが少なくなっていないですか	→ タオシベルトの張りを調節してください → タオシベルトを取付けてください → 駆動ローラの土を取り除いてください → チェンの張りを調節してください → Vベルトの張りを調節してください → HSTオイルを規定量入れてください	
トッキツキVベルトが 作動しないときには	1. トッキツキVベルトが緩んでいませんか 2. トッキツキVベルト内部にねぎの葉等がかみ込んでいませんか	→ トッキツキVベルトの張りを調節してください → トッキツキVベルト内部のねぎの葉等を取り除いてください	
走行クラッチレバー・作業クラッチレバーを 「入」にしても走行しないときには	1. 走行Vベルトが緩んでいませんか 2. 走行Vベルトが切れていませんか 3. 変速レバーが中立になっていませんか 4. 掘取部（スキ先）が深く入り過ぎていませんか 5. 駆動Vベルトが緩んでいませんか 6. 変速レバーが戻っていませんか 7. 変速レバーが緩んでいませんか	→ Vベルトの張りを調節してください → 新しいVベルトと交換してください → 変速レバーを低速または高速に入れてください → 掘取部（スキ先）の深さを適正にしてください → Vベルトの張りを調節してください → 変速レバーをゆっくり動かしてください → 支点のネジを緩めて調節してください	

	こんな確認をして	→	こう処理します
倒しても旋回しないとき パワーステアリングレバーを	1. ブレーキがきかずにスリップしていませんか 2. クラッチが切れていますか 3. 走行Vベルトが緩んでいませんか 4. 変速レバーが戻っていませんか 5. 変速レバーが緩んでいませんか 6. 油圧ポンプのオイルが少なくなっていますか	→ → → → → →	ブレーキが効くように調節してください クラッチが切れるように調節してください Vベルトの張りを調節してください 変速レバーをゆっくり動かしてください 支点のネジを締めて調節してください 油圧ポンプのオイルを規定量入れてください
昇降しないときには 土落しドラムが	1. ヒューズが切れていませんか	→	ヒューズを交換してください。
したときには キャブレターから燃料がオーバーフロー	1. キャブレターに土や砂などの異物が混入していませんか	→	○キャブレターだけでなく、燃料タンクの中、および燃料コックのフィルタも清浄してください。 ○燃料を給油する時は燃料タンクに土や砂などの異物を混入させないでください。 (P19.取扱上の注意参照)

定期点検

⚠ 警告

- ① 点検・整備・調節をするときは、交通の危険がなく、平坦で安定した場所で行ってください。
【守らないと】 機械が転倒するなど、思わぬ事故の原因になります。
- ② 点検・整備をするときは、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、各レバーを「切」位置にして、回転部分の停止を確認してから行ってください。
【守らないと】 回転部に巻き込まれたり、重大な事故の原因になります。
- ③ 掘取部を上げて、点検・整備・調節をするときは、必ず昇降レバーロックを「ロック」の位置にして、掘取部を固定してください。
- ④ 室内で点検・整備をするときは、換気を十分に行ってください。エンジンの排気ガスで中毒を起こすおそれがあります。
- ⑤ 複数で作業するときは、安全を確保するために、キースイッチのキーを抜いてください。

⚠ 注意

- 点検・整備をするときは過熱部分が十分に冷めてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。
- カバーを外して点検・整備したときは、必ずカバーを元通りに取付けてください。元通りに取付けないと、回転部に巻き込まれたり、傷害事故を起こす原因になります。

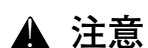
1. 定期点検・整備の時期について

- 1-1 機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、又、来シーズン安心してソフィを使って頂くために、1シーズンごとにお買上げ頂いた販売店で有料点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。

1-2 定期点検一覧表

区分	項 目	運転時間と定期点検内容	備 考	参照
エンジン	燃料	毎作業前点検内容	無鉛ガソリン	19
	エンジンオイルの点検	8時間(毎日)補充・50時間(毎週)交換	SE 級以上	40
	パイプ・ホース類の点検	2 年毎交換		53
	エアクリーナの清掃	30時間（毎週）清掃、1 年毎交換		42
	燃料ストレーナの清掃	200時間（毎月）清掃		43
	スパークプラグの清掃	200時間（毎月）清掃	BRESE エンジン取説参照	—
	スタータの清掃	50時間（毎週）エアブロー		50
走行部	走行ミッションオイルの点検	毎シーズン初め点検・補充 300時間毎交換	ギヤーオイル# 90	41
	ゴムクローラの点検	適時点検・調節		43
	HST油圧オイルの交換	1 年または500時間交換	シェルロードレックス 10W-30 CD級	41
	レベリングアーム支点	200時間（毎年）グリース補給	日本石油 エビノックグリースAP2	44
収穫部	コンベアの点検	適時点検・調節		44
	挟持搬送ベルトの点検	適時点検・調節		44
	整列搬送タオシベルトの点検	適時点検・調節		45
	トッキツキVベルトの点検	適時点検・調節		46
	挟持搬送部内部の点検	10時間毎点検・清掃		46
	整列搬送部内部の点検	10時間毎点検・清掃		46
	収穫部駆動チェンの点検	50時間（毎週）点検・清掃		48
	土落としドラム支点部の点検	適時グリース補給	エビノックグリースAP2	51
	挟持アーム支点部の点検	適時グリース補給	エビノックグリースAP2	51
その他	各ベルトの張り点検	適時点検・調節		47.48.50
	各クラッチの点検	適時点検・調節		47
	バッテリーの点検	インジケータが黒色になったら充電		43
	各レバー支点部の点検	適時点検・調節	ヘンソクレバー スロットルレバー	48
	ヒューズの点検	適時点検・交換		49
	駐車ブレーキの点検	適時点検・調節		50

※エンジンについては、エンジンの取扱説明書をお読みください。



注意

点検するときは、必ずエンジンを停止してください。ケガをするおそれがあります。

2. エンジンオイルの交換

⚠ 注意

点検は、必ずエンジンを停止させて行ってください。

⚠ 警告

サイドカバーLを開いて点検するときは、マフラー高温のためマフラーおよびその付近に触れないでください。

HSTのファン等回転部に触れないでください。

点検後は、必ずサイドカバーLを締めてください。

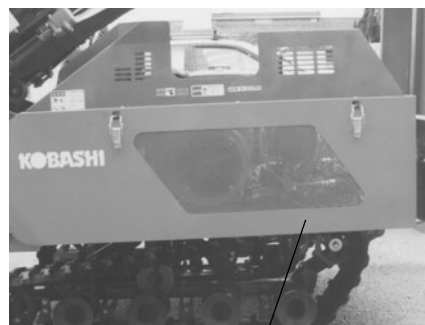
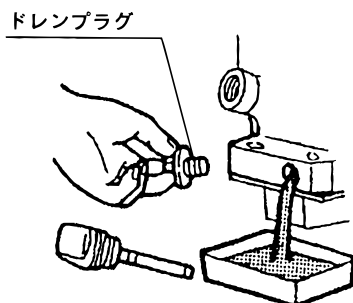
初 回 20時間運転後に交換
第2回以降 50時間運転毎に交換

⚠ 警告

エンジン移動後は、各部が高温になっていますので、すぐにオイル交換を行ってはいけません。

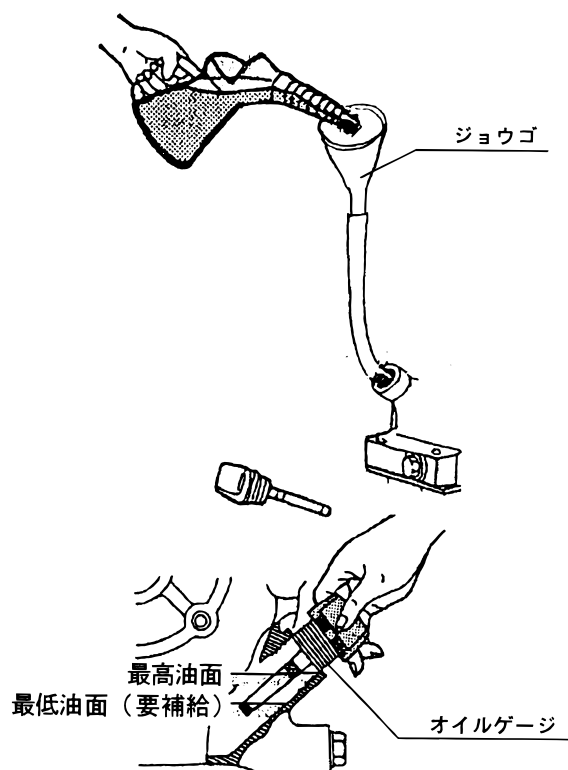
オイルが冷えてから行ってください。

- 2-1 オイル交換はエンジンを停止し、オイルが冷えてからドレンプラグを外して抜きます。
オイルゲージを外しておくと早く抜けす。



サイドカバーL

- 2-2 オイルを注入するときは、ドレンプラグをしっかり締めてください。オイルはエンジンを水平に置き、注入口からオイルゲージをねじ込まないで計り、上の刻み線まで入れてください。付属品のジョウゴを使ってください。エンジンオイルは、口もといっぱいまで入れてください。



オイルは、SE級以上を使用してください。

オイル銘柄	油 量
春～夏 SAE #30	約1.0 ℓ
秋～冬 SAE #20	
年 間 SAE10W-30	

(出荷時にはSAE10W-30を入れています)

3. 走行ミッションオイルの点検・交換

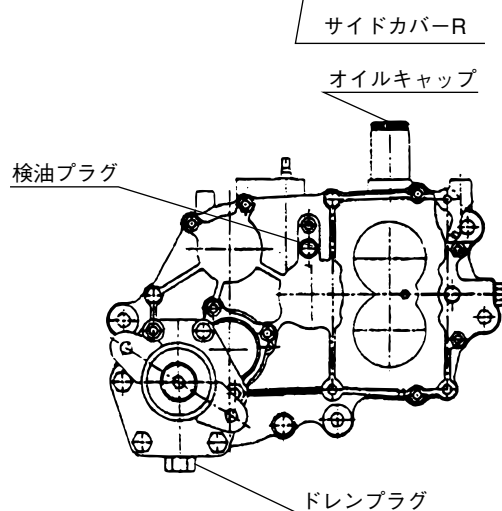
取扱上の注意

毎シーズン初めに規定量入っているか確認してください。

交換作業は、お買い上げ頂いた販売店に依頼してください。

3-1 点 検

- ① サイドカバーRを取外すと走行ミッションが見えます。
- ② 走行ミッション側面にある検油プラグを緩めて、オイルが規定量入っているか確認し、少ない場合は補充してください。



3-2 交 換

- ① オイル交換は、ドレンプラグを外して抜きます。
オイルキャップを外しておくと早く抜けます。

- ② オイルを注入するときは、ドレンプラグをしっかり締めてください。
オイルは検油プラグまで入れてください。

オイル銘柄	油 量
ギヤーオイル#90	約3.2ℓ

4. HST油圧オイルの交換

取扱上の注意

オイル量の点検は、オイル漏れ等、ない場合は必要ありませんが、1年又は500時間毎にオイルとオイルフィルタを同時に交換してください。

オイルの交換を怠ると、機械の寿命を短くする恐れがありますので指示にしたがってください。

交換作業は、お買い上げ頂いた販売店に依頼してください。

又、HST本体のドレンプラグを緩めての交換作業は絶対にしないでください。故障の原因となります。

- 4-1 収穫部を下げて、地面に接地した状態で作業してください。
- 4-2 オイルの交換は、オイルタンク下側のドレンプラグを外して抜きます。
- 4-3 オイルフィルタの交換は、フィルタを左に回して取り外してください。
フィルタの取り外し時にもオイルが少し出ますので、オイル受けを下に置いて作業してください。
- 4-4 オイルフィルタの取付けは、新品のフィルタ取付面ゴムパッキン部に薄くオイルを塗り、右に回して手で締め付けてください。
- 4-5 ドレンプラグに新しいシールテープを巻き本体に締め付けてから、新しいオイルをキャップ部より規定量(キャップを軽くねじ込んで、キャップのゲージ棒の先端から上のきざみ線の範囲)入れてください。



補充

品 名	銘 柄
オイル	昭和シェルオイル 10W-30 CD級以上 (フリートマルチ、ロードレックス、 リムラX等)

交換

品 名	銘 柄	
オイル	昭和シェルオイル 10W-30 CD級以上 (フリートマルチ、ロード レックス、リムラX等)	2.7 ℓ
オイル フィルタ	純 正 品	

取扱い上の注意

オイル、オイルフィルタは指定品を必ず使用してください。

他品との混用は機械の寿命を短くする恐れがあります。

4-6 HST内部のエア抜きを二人作業で行ってください。

⚠ 注意

HSTバイパスバルブを手で押し込むときは、(副変速レバーを中立にしてください) 回転物に注意し、又、本機が少し動くこともありますので、二人で互いに合図をしながら、安全を確認して作業してください。

- ① エンジンを始動し、アイドル回転にします。
- ② 一人がHST下部のバイパスバルブを手で押し込み、他の一人が副変速レバーを中立にし、走行クラッチレバーを「入」にし、主変速レバーをゆっくりと前方、後方に約1分間動かし、エア抜きを十分行なってください。HSTより異音が出ることがありますが、異常ではありません。

取扱上の注意

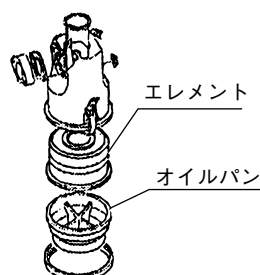
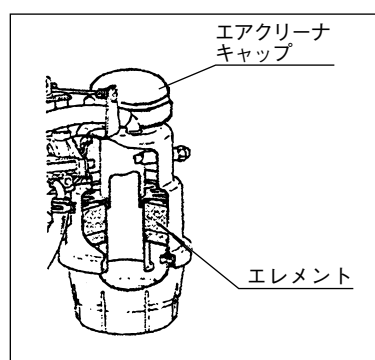
HSTのエア抜きが終わるまではHSTに負荷をかけないでください。

5. エアクリーナの清掃と交換

取扱い上の注意

50時間 (毎週) ごとに清掃してください。

- ① クランプを外し、オイルパン、エレメントを取り出します。
- ② エレメントを白灯油で洗浄した後、エンジンオイルをエレメントに塗布し、滴を振り切って取付けてください。
- ③ オイルパンを洗浄し、OIL LEVELの線までエンジンオイルを入れてください。
- ④ クランプを確実にしてください。



6. 燃料ストレーナの清掃

取扱上の注意

200時間（毎月）ごとに清掃してください。

6-1 燃料コックを「閉」にし、ストレーナカップを左に回して、取外してください。

6-2 ストレーナカップ内の水やゴミを捨て、コシアミに付着しているゴミも捨てて、洗油（白灯油）で洗い、本体に完全に締め付けます。

7. バッテリーの点検

7-1 バッテリー上部についている充電インジケータで、確認してください。

7-2 水平な所で確認してください。

インジケータの色	充電状態	必要処理
グリーン	正 常	正常使用できます
ブラック	不 足	補充電が必要です
透 明	液が不足	始動できないとき バッテリー交換

⚠ 警告

- ① バッテリーの点検・取扱いは、エンジン停止、キースイッチを「OFF」の状態で行ってください。
- ② バッテリーは、水素ガスを発生しますので、爆発の恐れがあります。
タバコなどの火気を近づけたり、スパークを起こすような行為はやめましょう。
- ③ バッテリー液は希硫酸ですので、もしバッテリー液が衣服の皮膚に付着したら、すぐに、大量の清水で洗い落としてください。
目に入ったときは、直ちに清水で洗い、その後、医師の治療を受けてください。
- ④ バッテリーの取外しは、⊖側端子から取外

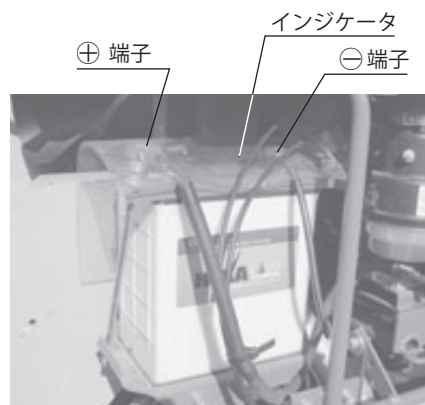
し、取付けは⊕側端子から行ってください。
⊕ 端子と機体の間に工具等が触れるとスパークをおこし危険です。

- ⑤ 端子がゆるんでいると、接触不良によりスパークが発生し爆発の危険があります。
端子を取り付けるときは、しっかり取付けてください。
- ⑥ ⊕ ⊖の取付けを絶対に間違えないでください。

指定バッテリー

44B19L 相当
(部品コードNo.771-0215)

- 7-3 新品時装着されているバッテリーは、注液口がなく、補水の必要がありません。
(密閉型で寿命まで補水不要タイプ)



- 7-4 配線の点検

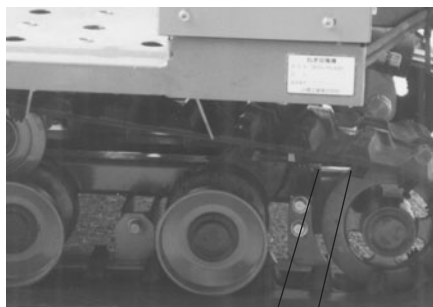
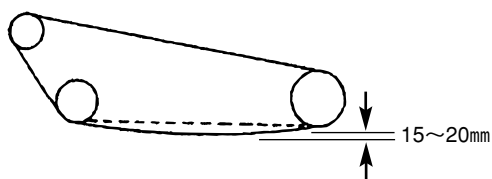
配線コード、ハーネスを点検し、被覆の亀裂・摩耗・焼け等があれば交換してください。
配線は振動したり動く部分をさけ、結束バンドで固定してください。

8. ゴムクローラの張り方

取扱上の注意

適時に、点検・調節を行ってください。
初回使用30時間は、増締めが必要です。

- 8-1 ゴムクローラの張り方は、本機を持ち上げた状態で、張り量が「15～20mm」になるように押しボルトで調節してください。



8-2 調節後は、ロックナットをしっかりと締めてください。

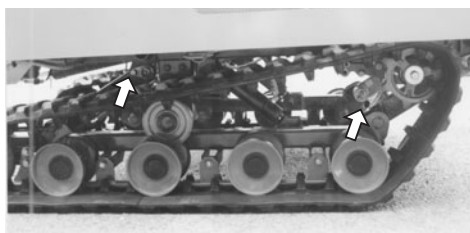
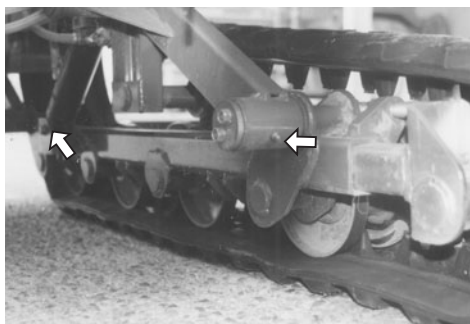
取扱上の注意

張りが弱いと、脱輪し易くなります。

9. レベリングアームのグリスアップ

9-1 掃除後、下図の位置にグリスアップを行ってください。

8箇所あります。(左右4箇所ずつ)



10. コンベアの張りかた

10-1 掘取り部を水平になるまで上げ、矢印で示したナットを左右両面均等に緩め、スキサキソクバンがスライド可能な状態にしてください。



10-2 コンベアのたるみが、コンベアフレーム下位置と5mm~10mmになるまで、押しボルトを閉め込んでください。



10-3 調節が終わったら、緩めたナット・ロックナットを締めつけてください。

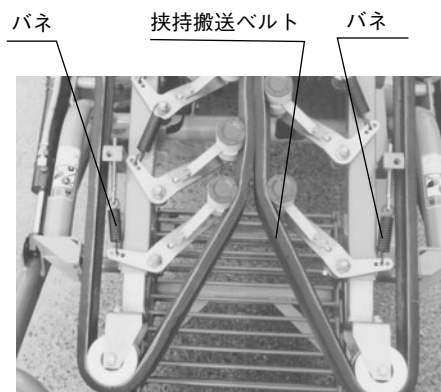
10-4 エンジンを開始し、副変速レバーを中立位置に合わせ、作業クラッチを「入」にし、主変速レバーを前に倒し、しばらくコンベアを回し、異常がないか確認してください。

11. 挟持搬送ベルトの張りかた

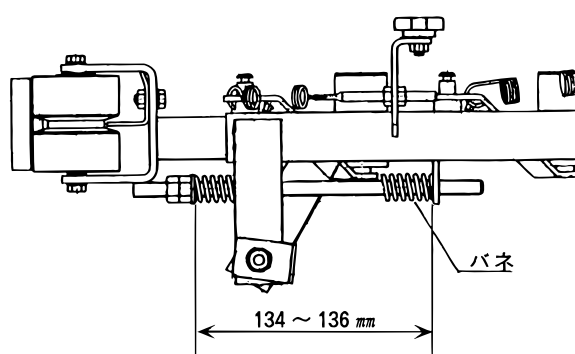
11-1 カバーを外してください。

11-2 各テンションアームの張りを調節してください。

バネフック長を「82~84mm」に調節してください。4箇所あります。



11-3 バネフック長を「134～136mm」に調節してください。



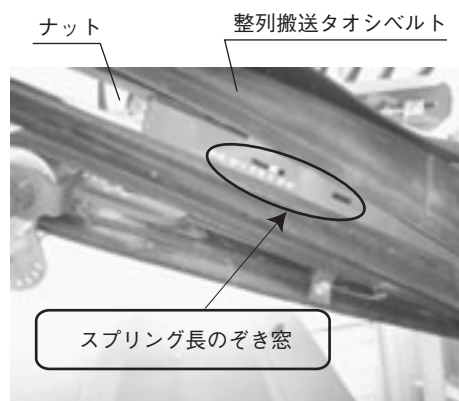
11-4 カバーを取付けてください。

11-5 エンジンをかけ、副変速レバーを中立位置に合わせ、作業クラッチを「入」にし、主変速レバーを前に倒ししばらくベルトを回し、異常がないか確認してください。

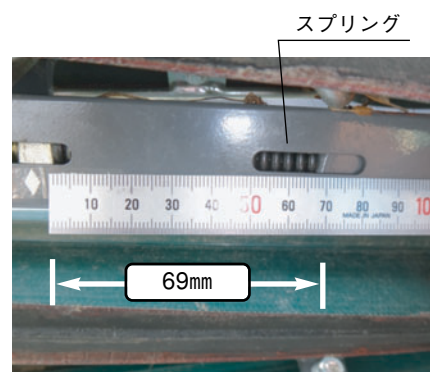
12. 整列搬送タオシベルトの調節

タオシベルトが伸びたり交換をしたときは、タオシベルトの張り調節を行ってください。
張りが弱いとタオシベルトが外れやすくなります。

12-1 ナットを回転させ、スプリングの長さで張りの調節を行います。ナットを反時計方向に回転させるとスプリング長が短くなって強く張ることができます。



12-2 ナットを締め込み（反時計回転）、スプリング長が69mmになるように調節してください。



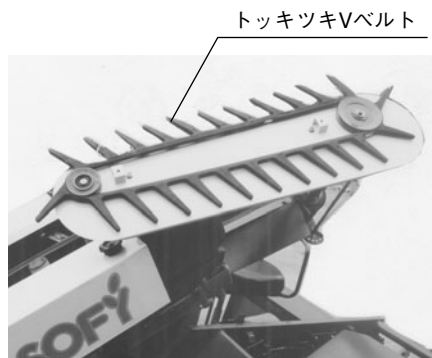
12-3 調節が終了したらタオシベルトをしばらく回転させて異常がないか確認してください。
異常がある場合は、原因を調べて再度調節をやり直してください。

▲ 注意

機械を走らせないでタオシベルトを回転させる場合は、走行副変速レバーを中立位置に合わせ、作業クラッチを「入」にします。
回転のスピードを変えるときは、主変速レバーを前後に倒します。

13. トッキツキVベルトの張りかた

- 13-1 カバーを取外しロックナットをゆるめてください。
- 13-2 もう一方のナットを締め込んで、張りを調節してください。



- 13-3 カバーを取付けてください。
- 13-4 エンジンをかけ、副変速レバーを中立位置に合わせ、作業クラッチを「入」にし、主変速レバーを前に倒ししばらくベルトを回し、異常がないか確認してください。

14. 挟持搬送部内部の点検

- 14-1 カバーを取外してください。
- 14-2 内部にねぎの茎葉や土がたまっていないか点検してください。
- 14-3 たまっている場合は掃除をしてください。



- 14-4 カバーを取付けてください。

15. 整列搬送部内部の点検

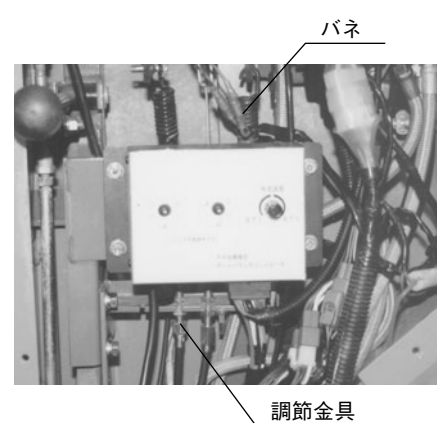
- 15-1 カバーを取外してください。
- 15-2 内部にねぎの茎葉や土がたまっていないか点検してください。
- 15-3 たまっている場合は掃除をしてください。



- 15-4 カバーを取付けてください。

16. 走行クラッチレバーの調節

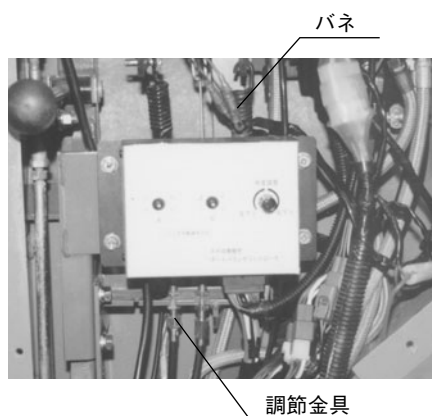
- 16-1 走行クラッチレバーが「切」で確実にクラッチが切れ、レバーを「入」にした時、確実に動力が伝わるようにしてください。
- 16-2 調節は、走行クラッチワイヤの調節金具を調節して行ってください。
クラッチを「入」位置にした時、バネフック長が「85～87mm」に調節してください。



- 16-3 調節は、一度に大きくしないで、少しずつ調節しながら行ってください。

17. 作業クラッチレバーの調節

- 17-1 作業クラッチレバーは、走行クラッチと作業クラッチが同時に作動します。
- 17-2 作業クラッチレバーが「切」で確実にクラッチが切れ、レバーを「入」にした時、確実に動力が伝わるようにしてください。
- 17-3 作業クラッチは、作業クラッチワイヤの調節金具を調節して、クラッチを「入」位置にした時バネフック長を「85～87mm」に調節してください。



- 17-4 調節は、一度に大きくしないで、少しずつ調節しながら行ってください。

18. 油圧ポンプテンションの張りかた

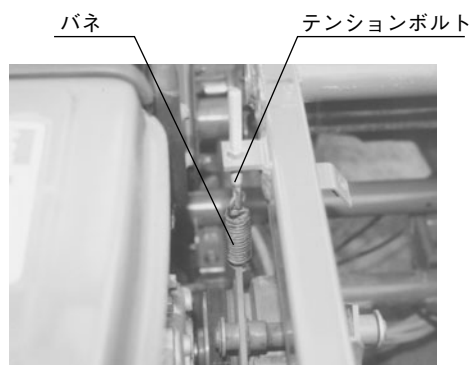
取扱上の注意

適時、点検・調節をしてください。

- 18-1 ノブボルトを緩めて作業台を開けてください。



- 18-2 バネフック長を「78～82mm」に調節してください。



- 18-3 作業台を閉めてノブボルトで固定します。

19. カウンタVベルトテンションの張りかた

取扱上の注意

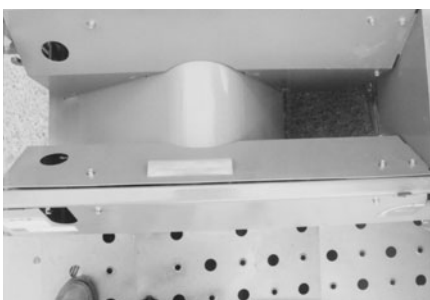
適時、点検・調節をしてください。

- 19-1 ノブボルトを緩めて作業台を開けてください。

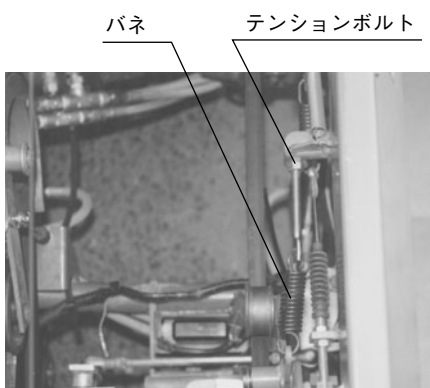




19-2 カバーを取外してください。



19-3 バネフック長を「78～82mm」に調節してください。



19-4 カバーを取付けてください。

19-5 作業台を閉めてノブボルトで固定します。

20. 変速レバー、スロットルレバーの支点部の緩み調節

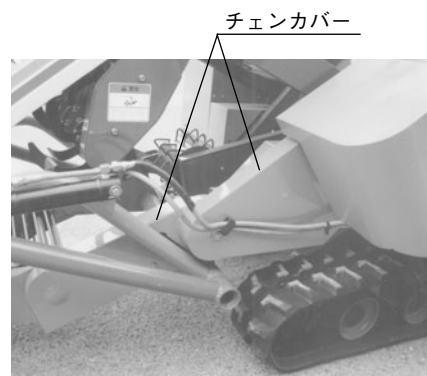
取扱上の注意

適時、点検・調節をしてください。

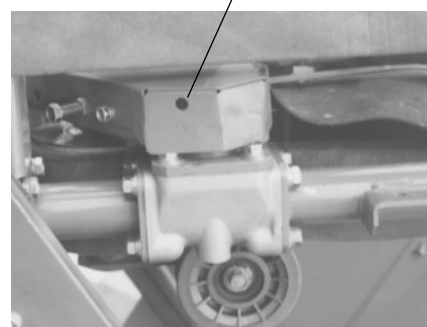
20-1 作動時に戻らないように締めつけて、ナットでロックしてください。

21. 収穫部駆動チェーンの点検

21-1 チェンカバーの注油口からオイルを注油してください。



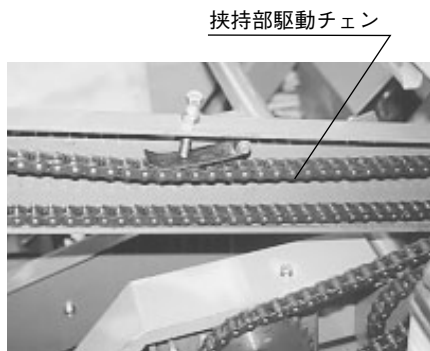
注油口（左右2ヶ所）



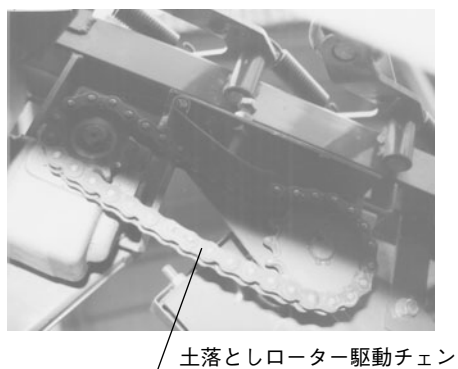
21-2 チェンカバーを外します。

21-3 駆動チェーンに、毎シーズン初めにオイルを注油します。

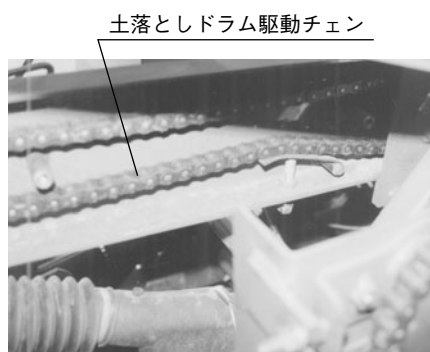
21-4 挟持部駆動チェーン



21-5 土落としローター駆動チェーン



21-6 土落としドラム駆動チェーン



21-7 点検のために外したカバー類は、必ず元の通りに取付けてください。

22. 土落としローター駆動Vベルトテンションの張りかた

22-1 カバーを取外してください。

22-2 バネフック長を「76～80mm」に調節してください。



22-1 カバーは必ず元の通りに取付けてください。

23. ヒューズ・スローブローヒューズの点検・交換

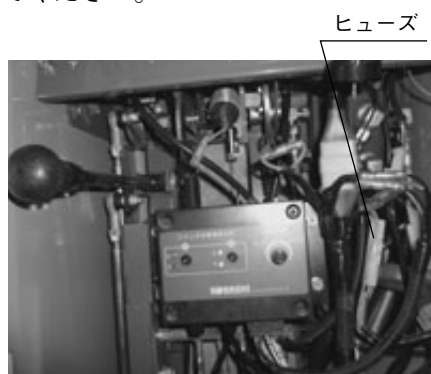
⚠ 警告

- 配線コード・ハーネスが他の部品に接触していないか、被覆のはがれがないか作業前に点検してください。
- 指定以外のヒューズや針金・銀紙の使用は絶対にしないでください。

23-1 ヒューズの点検・交換

- ① ヒューズボックスのフタを外して点検します。
- ② ヒューズボックスは、キースイッチの裏側にあります。
- ③ 切れたヒューズは、必ず同容量のヒューズと交換してください。
- ④ 針金や銀紙などの代用は絶対にしないでください。
機械の破壊につながります。

- ⑤ 交換してもすぐ切れる場合は、ショートしているおそれがあります。点検・修理をしてください。



23-2 スローブローヒューズの点検・交換

スローブローヒューズは、配線を保護するためのものです。

切れた場合は販売店で点検・修理をしてください。また、代用品を使用しないで、必ず純正部品を使用してください。

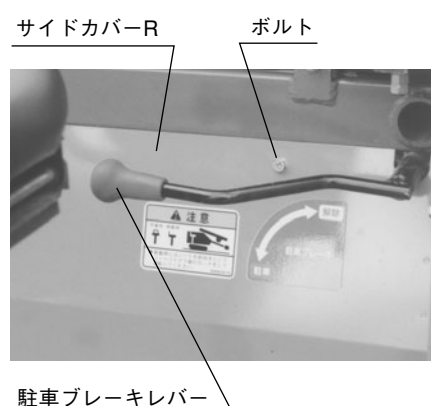
スローブローヒューズ
20 A (部品コードNo.7600654)

24. 駐車ブレーキレバーの調節

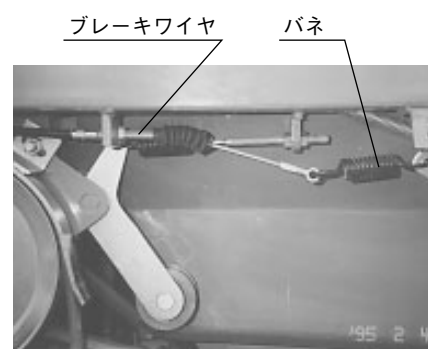
取扱上の注意

適時、点検・調節をしてください。

- 24-1 ボルトを緩めて、サイドカバーRを取外してください。



- 24-2 駐車ブレーキレバーを「駐車」位置にした時、ブレーキワイヤの調節金具を調節してバネフック長を「88mm～92mm」に調節してください。



- 24-3 サイドカバーRを取付けてください。

25. スタータ内の砂ぼこりの除去

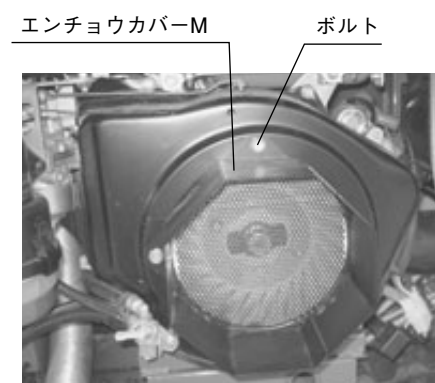
砂地のねぎ圃場で本機を使用した後は、スタータ内をエアブローして、砂ぼこりを吹き出してください。

重要なお知らせ

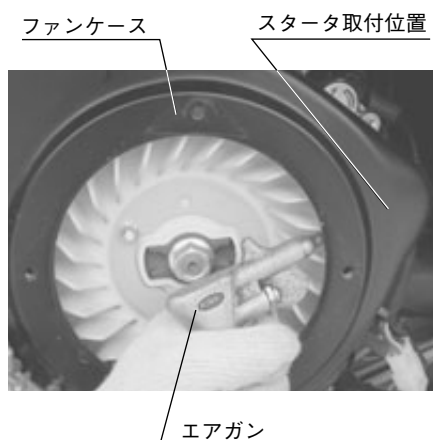
冷却風に混入した砂ぼこりがスタータ内に浸入すると、ピニオンシャフト軸受けの摩耗が早くなり、異音を発する恐れがあります。

また、ピニオンギヤの動きが悪くなり、エンジンがかかりにくくなることがあります。

- 25-1 ボルト(4本)を緩めて、エンチョウカバーMを取り外してください。



- 25-2 ファンケース内のスタータを目がけて、砂ぼこりが出なくなるまでエアブローしてください。



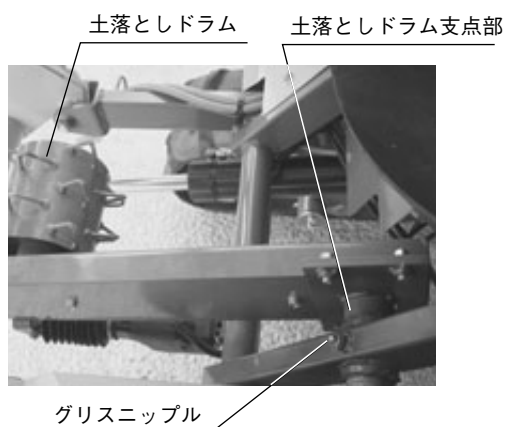
- 25-3 エンチョウカバーMを取り付けてください。

▲ 注意

エアブローするときは、安全のため防塵マスクと保護メガネ（ゴーグル）を必ず着用してください。

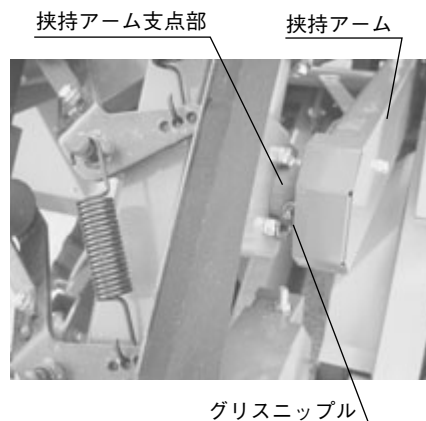
26. 土落としドラム支点部のグリスアップ

土落としドラム支点部が土ぼこりや錆等で固着しないよう、定期的にグリスアップを行ってください。



27. 挟持アーム支点部のグリスアップ

挟持アーム支点部が土ぼこりや錆等で固着しないよう、定期的にグリスアップを行ってください。



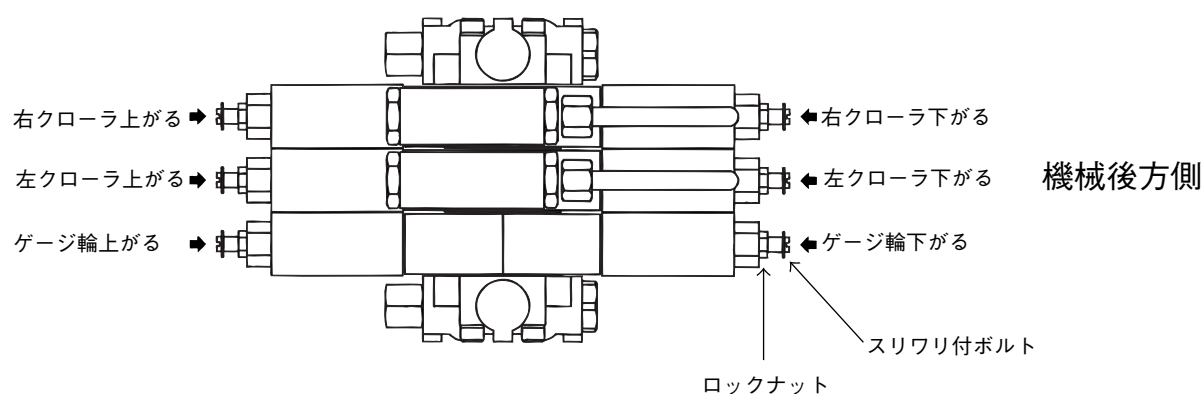
28. スタックバルブ（電動バルブ）手動操作方法

ゲージ輪及び左右のクローラを上下させるシリンダが、手元のスイッチで動かせなくなった場合は、下記手順で直接スタックバルブを操作することができます。

28-1 スタックバルブの取付け位置を確認します。機械後方左側に取り付いています。

（28-3の写真を参照してください）

28-2 動作させたいシリンダを確認し、手動操作するバルブの位置を決定します。



28-3 エンジンを始動し、バルブ先端のロックナットをいっばいに緩め、スリワリ付ボルトを締め込んでいきます。動かしたい位置まで移動したら、スリワリ付ボルトを逆に回してシリンダの動きをストップさせます。（下図はゲージ輪を下げる場合です）



28-4 他のシリンダを動作させたい場合は、2～3の手順で同じように行います。

⚠ 注意

手動でシリンダの操作を行なう場合は、周りが見えにくくなりますので、人や物への接触に十分注意してください。

作業が終わったら

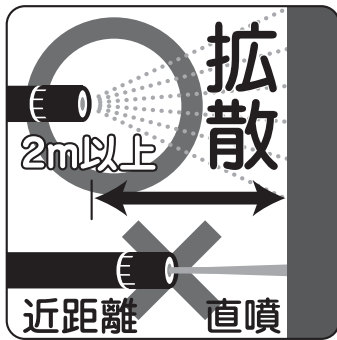
1. 作業後の手入れ

- 1-1 その日のうちに水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取って、各回転部・摺動部に注油してください。

▲ 注意（高圧洗車機）

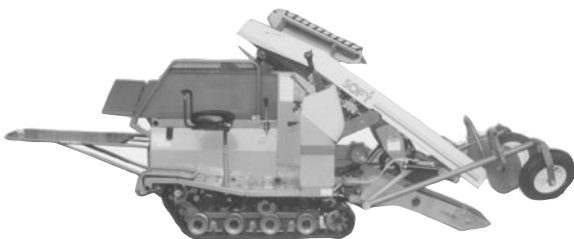
機械を損傷させないように洗車ノズルは拡散にし、2 m以上離して洗車してください。もし、直射や不適切に近距離から洗車すると機械の破損・損傷・故障や事故の原因になります。

- 例 1) 電気配線被覆の損傷・断線によるショート、火災の発生
2) シール・ラベルの剥がれ
3) 電子部品等への水浸入による故障
4) 樹脂類（カバーなど）の破損
5) 塗装・メッキ皮膜の剥がれ



2. 長時間使用しない場合の手入れ

- 2-1 乾燥した風通しの良いところでホイルゲージを上げ、収穫部を下げて、格納してください。



取扱上の注意

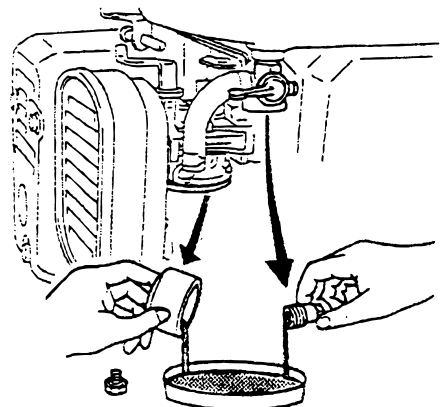
本機から離れる場合はエンジンを切って収穫部を接地させてください。
収穫部を上げた状態で長時間経過すると、下降します

- 2-2 各クラッチは「切」にし、駐車ブレーキをかけてください。
- 2-3 各部のサビやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ってください。
- 2-4 バッテリーを完全充電し、なるべく本機から取外し、風通しのよい冷暗所に保管してください。
また、本機に取付けたまま保管するときは、必ず⊖端子を外してください。

▲ 警告

バッテリー端子は外してください。守らないと、ネズミ等の被害により、ショートして火災事故を起こすおそれがあります。

- 2-5 燃料ストレーナを取外し、タンク内の燃料を完全に抜き取ってください。
- 2-6 気化器内の燃料は、下部のフロート室締付けボルトを外して、燃料を抜いてください。

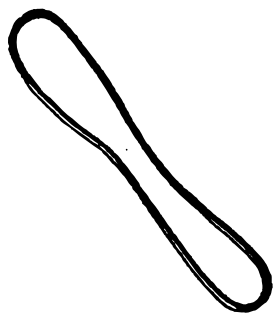


- 警告**
保護カバーをかける際、必ずエンジンが冷めてから、カバーをかけてください。
守らないと、保護カバーが燃え、火災事故につながります。

3. 主要消耗部品

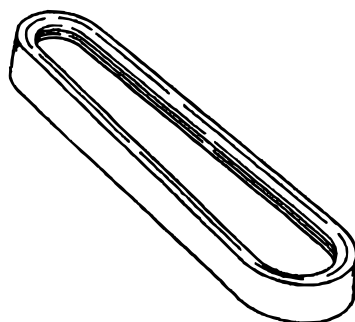
区 分	No	品 名
ベ ル ト	①	キョウジベルト 75W × 3120 L
	②	タオシベルト 75W × 1860 L
	③	トッキッキVベルト HDA54
チ ェ ン	④	ローラチェン #40 × 74 リンク (カウンタ～土落としドラム)
	⑤	ローラチェン #40 × 38 リンク (カウンタ～土落としローター)
	⑥	ローラチェン #40 × 116 リンク (カウンタ～キョウジカウンタ)
	⑦	ローラチェン #40 × 56 リンク (ドラムカウンタ～ホリトリカウンタ)
	⑧	ローラチェン #40 × 81 リンク (ホリトリカウンタ～コンベア)
	⑨	ローラチェン #40 × 112 リンク (キョウジベルト駆動)
	⑩	ローラチェン #40 × 30 リンク (タオシベルト駆動)
ワ イ ヤ	⑪	走行クラッチワイヤ
	⑫	作業クラッチワイヤ
	⑬	アクセルワイヤ
	⑭	チョークワイヤ
	⑮	ブレーキワイヤ
	⑯	リターンワイヤ
ホース	⑰	タイユホース $\phi 9 \times 550L$
ア イ ド ラ	⑱	アイドラ VFF-4020 (土落としローター駆動)
	⑲	アイドラ VFF-4520 (油圧ポンプ、収穫部駆動)
	㉑	アイドラ VFF-7020 (収穫部) 7710244
	㉒	アイドラ VFF-7028 (走行部駆動) 7640177
	㉓	Vアイドラ VMF-62A1 (トッキッキVベルト駆動)
	㉔	スプロケットアイドラ (チェン駆動)

区 分	No	品 名
そ の 他	②4	クドウホイール
	②5	クローラガイド F
	②6	マガリスキサキレーキ
	②7	スキサキシクバン
	②8	テーパコンベアローラ
	②9	コンベアsproケット 1
	③0	バーコンベア
	③1	リングプレート 2
	③2	スクレーパプレート
	③3	コンベアガイド
	③4	ドラム
	③5	イタバネ
	③6	3 ゴウナタツメ
	③7	ローターゴム
	③8	ネキリディスク
	③9	テンションプーリ
	④0	クドウプーリ
	④1	ローラアト R
	④2	ローラアト
	④3	タオシベルトオサエ
	④4	タオシベルトガイド
	④5	ガイドローラ
	④6	ガイドローラ 1

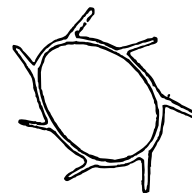


Vベルト規格参照

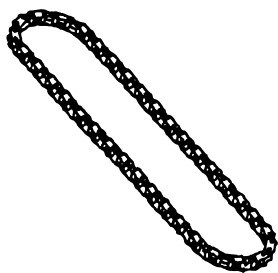
① ②



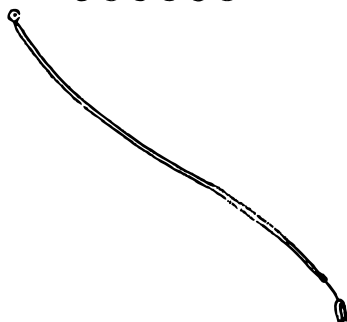
③



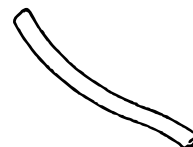
④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩



⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯



⑰



⑱ ⑲ ⑳ ㉑



㉒

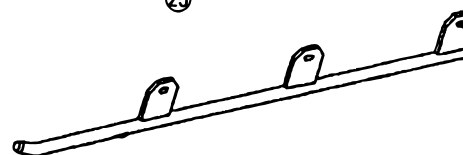
㉓

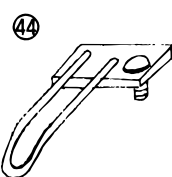
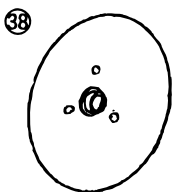
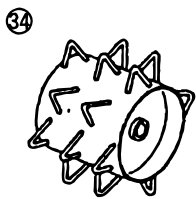
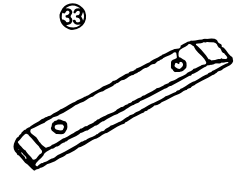
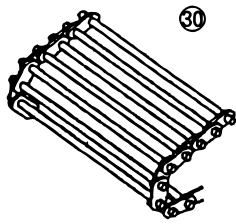
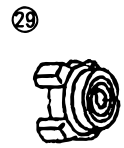
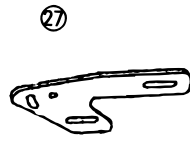
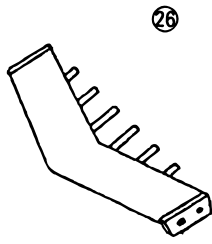


㉔



㉕

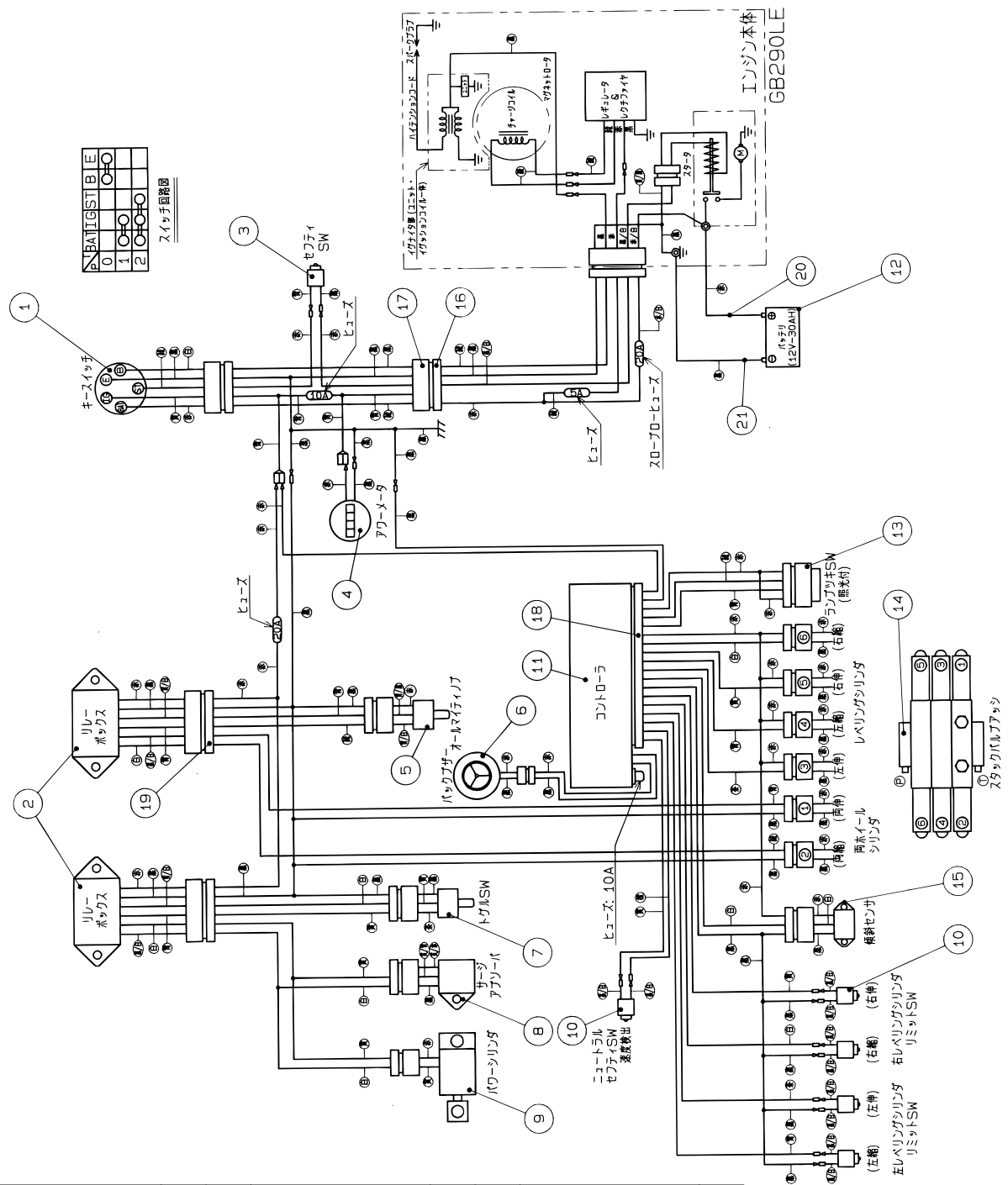




主要諸元

型	式	名	コバシ HG100	
区	分		MA	
機 体 寸 法	全	長 (mm)	4120 (2300)	
	全	幅 (mm)	1350	
	全	高 (mm)	1600 (1850)	
機	体	質 量 (kg)	715	
エ ン ジ ン	型	式 名	GB290LE (ミツビシ)	
	種	類	空冷4サイクル傾斜形横軸 OHV式ガソリンエンジン	
	総	排 気 量 ℓ (cc)	0.296 (296)	
	出	力 / 速 度 (kw(ps)/rpm)	5.9 (8.0)/1800	
	使	用 燃 料	自動車用無鉛ガソリン	
	燃	料 タ ン ク 容 量 (ℓ)	6	
	始	動 方 式	セルスタータ式	
走 行 部	ク	ローラ幅×接地長 (mm)	200×980	
	ク	ローラ中心距離 (mm)	720	
	変	速 方 法 (mm)	高低2段×HST式無断变速	
	走	行 速 度 (m/s)	前 進	低速 0~0.2 高速 0~0.85
			後 進	低速 0~0.17 高速 0~0.7
収 穫 部	旋	回 方 式	信地および超信地旋回	
	掘	取 条 数	1 条	
	掘	取 幅 (mm)	400	
	掘	取 部 方 式	バーコンベア	
	掘	取部上下作動方式	油圧 (複動シリンダ)	
	収	穫部上下作動方式	油圧 (複動シリンダ)	
	土	砂 分 離 方 式	側 面	ゴム付爪式
			下 面	突起付きドラム式
	搬	送 部 搬 送 方 式	挟持搬送、スポンジ付きベルト	
自 動 車 体 水 平 制 御			有り	
コ ン テ ナ 積 載 量 (kg)			最大 100kg	
作 業 人 員			1~2名	
適 応 栽 培 様 式 (mm)			1条植、畝間750以上、畝高さ 300~500	
作 業 能 率 (min/10a)			860 (1人)、290 (2人) : 畝間1000mm、畝長さ50m	
安 全 鑑 定 番 号			23088 /10	

電気配線図



品名	数	品名	数	品名	数
1 キースイッチAssy	1	8 サージアブソーバ	1	15 ケイシャセンサアッシ	1
2 リレーボックス	2	9 パワーシリンダ	1	16 エンジンハーネスM Assy	1
3 セフティスイッチ	1	10 ニュートラルセフティスイッチ	5	17 エンジンハーネス	1
4 アワメータ	1	11 コントローラ	1	18 コントローラハーネス	1
5 オールマイティノブ	1	12 バッテリ	1	19 ホリトリハーネス	1
6 バックブザー	1	13 ランプツキスイッチ	1	20 バッテリーケーブル⊕	1
7 トルグスイッチ	1	14 スタックバルブアッシ	1	21 バッテリーケーブル⊖	1



小橋工業株式会社

〒701-0292 岡山市南区中畦684

インターネットでも弊社の情報がご覧いただけます。

<http://www.kobashiindustries.com>

■北海道営業所	〒071-1248	北海道上川郡鷹栖町8線西2号6番	☎ (0166) 49-0070
■東北営業所	〒024-0004	岩手県北上市村崎野13地割35-1	☎ (0197) 71-1160
■関東営業所	〒321-3325	栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台47-1	☎ (028) 687-1600
■新潟営業所	〒942-0041	新潟県上越市安江477-1	☎ (025) 546-7747
■岡山営業所	〒701-0165	岡山市北区大内田727	☎ (086) 250-1833
■九州営業所	〒861-2236	熊本県上益城郡益城町広崎1586-8 2F	☎ (096) 286-0202